樹木粉砕機

ＧＳ９６Ｇ

取 扱 説 明 書



警告　本機を取扱う場合は、事前に本取扱説明書を全部読んで十分理解をして機械の運転操作の練習を行い、運転操作に習熟した上で正しく作業を行って下さい。各種危険についても、本取扱説明書の注意事項を充分理解してから運転・調整または保守を行って下さい。守られなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

読み終わった後は必ず大切に保管し、わからないことがあったときは、取り出して再読して下さい。なお、エンジン・バッテリにつきましては、同封の各々の取扱説明書をご熟読下さい。もし、説明書が損傷や紛失により読めなくなった場合、販売店により新しい取扱説明書を購入し、常に参照できるように保管してください。

株式会社　大　　橋

NO. 10769010100
260918

まえがき

大橋 樹木粉砕機をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本機を快適かつ効果的に取扱いいただくためには、毎日の作業点検と定期的な点検整備が大事です。人間でいえば健康診断のようなもの、機械をいつも最良の状態にし、事故や故障を未然に防ぐことが大切です。日頃から義務として、点検を怠らないようにしましょう。

また、ちょっとした故障でも早期発見するよう心がけ、大きな故障にならないように整備してください。機械の調子が悪い時は、無理に使用せず、お買い上げいただいた販売店にお気軽にご連絡ください。その際、『本機型式と機体番号』を合わせて、ご連絡ください。『本機型式と機体番号』はフレーム後部のラベルに記載しています。

なお、品質・性能向上および、その他の事情で部品の変更を行うことがあります。その際、取扱説明書の内容および写真、イラストなどの一部が本機と一致しない場合がありますので、予めご了承ください。

目　　次

危険防止のために…… 1

ラベルについて…… 5

本機の使用目的・主要諸元…… 11

各部の名称…… 12

運転を始める前に…… 13
始業点検 …… 14

上手に運転するには（1）…… 15
エンジンの始動のしかた…… 15
発進のしかた…… 18
停止のしかた…… 18
変速のしかた…… 19
旋回のしかた…… 20
トラックへの積み降ろしのしかた…… 21
ロータクラッチの入・切のしかた…… 22
送りローラ操作のしかた…… 23
エンジン非常停止のしかた…… 24
シュータの固定と排出方向…… 25
粉砕のしかた…… 25

上手に運転するには（2）…… 26
受刃の反転・交換・調整…… 26
チッパナイフの反転・交換・調整…… 29
粉砕作業時の注意点…… 32
つまり防止の方法…… 33
噛みこみ解除のしかた…… 33
ひっかかり除去のしかた…… 34

定期の点検・整備をするには…… 35
オイル交換…… 35
走行クラッチ…… 37
サイドクラッチ…… 37
駐車ブレーキ…… 38
ロータクラッチ…… 39
チェーン…… 41
電磁クラッチ…… 41
クローラ…… 42
シュレッダナイフ…… 43
シュレッダナイフ軸…… 43
エンジン…… 44

給油・注油するところ…… 49

締付するところ…… 50

作業後の手入れ／長期保管…… 51
作業後の手入れ…… 51
長期保管…… 52
注意…… 52
付属工具一覧…… 53

消耗部品一覧表…… 54

トラブルシューティング…… 55
エンジンに関するトラブル…… 55
送りローラが回転しない場合…… 56
自動制御がきかない場合…… 58

配線図…… 59

万一の事故に備えて…… 60

お客様へ…… 60

使用手順書…… 62

始業点検表…… 64

危険防止のために

本書及び本機では、危険度の高さ(または事故の大きさ)にしたがって、警告用語を以下の様に分類しています。以下の警告用語が持つ意味を理解し、本書の内容(指示)に従ってください。

危　険
差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
警　告
潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う可能性のある場合に使用されます。
注　意
潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、軽傷を負う場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。

注　意
1．この取扱説明書は、いつでも読めるように、紛失、汚損の恐れのない、すぐに取り出せる所に必ず保管してください。 2．この取扱説明書が損傷により読めなくなった場合、紛失した場合は販売店より新しく取扱説明書を購入し、常に参照できるように保管してください。 3．この取扱説明書で解説している機械を貸与する場合は、借りて作業をする者に、この取扱説明書を読ませ、十分な指示、訓練を行った後、この取扱説明書とともに機械を貸与してください。 4．製品を譲渡する場合は、この取扱説明書を製品に添付してください。

注　意
1．本機を運転する者は、本機の取扱説明書をよく読み、理解してから運転すること。 2．取扱説明書が損傷や紛失により読めなくなった場合は、販売店により新しい取扱説明書を購入し、常に参照できるよう保管すること。 3．ラベルが損傷やはがれて読めなくなった場合は、販売店より新しいラベルを購入して貼り替えること。

1．機械を運転する前に必ず取扱説明書を読んで操作をよく理解して安全に作業をしてください。

2．取扱説明書でいう機械の「右」及び「左」、「前」及び「後」はオペレータが機械の投入口正面にいることを想定して意味しています。

3．本製品は、子供、体調がすぐれない人、酒気を帯びた人、妊娠中、過労、病気、薬物の影響、その他理由により正常な運転が出来ない人は使用しないでください。また大人でも適切な訓練を受けずに運転させないでください。

4．作業時および走行時は、前が見にくいため回りの安全を十分確認の上、作業を行ってください。

5．作業時にはヘルメット、安全靴、保護メガネ、防音保護具（耳栓）、保護手袋、長袖、長ズボンを着用してください。
軍手・布製の手袋・ダブダブの服・装飾品など投入物に引っ掛かり、引き込まれる可能性のあるものは着用しないでください。

6．始業前点検や定期的な点検・整備を行ってください。異常があれば整備し正常な常態で運転をしてください。
点検・整備・清掃・給油をする時は、エンジンを必ず止めて、ロータの回転が止まっている事を確認してから行って下さい。
取外したカバーは、点検後は必ず元通りに取り付けてから運転してください。

7．バッテリ・マフラやエンジン・ベルトカバー内、配線部周辺にごみや燃料の付着があると火災の原因になることがありますので、日常点検をして取り除くようにしてください。

8．運転は日中または十分な照明のあるときに限定してください。

危険防止のために

９．　居眠りや脇見運転はしないでくださ
い。運転前日は十分な睡眠を取り、運転中でも疲れを感じた場合は運転を中止し休息をとるようにしてください。

１０.作業は２人以上で行い、単独では行わないようにしてください。
作業前に作業の手順・作業者の配置・合図の方法などの確認をし運転を始めるようにしてください。運転中も声をかけ合い互いに安全を確認しながら注意し行ってください。

１１.発進するときは、前後左右に危険がないか確認してゆっくり発進してください。走行中は路面の状況や周囲の状況を把握しながら慎重に運転してください。
路肩や軟弱地、傾斜地や起伏の激しい場所等では走行しないでください。

１２.路肩を確認できるように除草し、予め進行方向の障害物の除去等を行った上で慎重な運転を心がけてください。

１３.坂道での停止は絶対しないでくださ
い。停止は平坦地にしてください。

１４.停車するときは、安全で平坦な場所を選んで停車してください。

１５.傾斜地での作業はしないでください。

１６.たき火などの火のそばで運転しないでください。また絶対に火を近づけないでください。

１７.機械を後進させるときは、後ろに何もないことを先ず確認し、足元に十分注意し後進させてください。

１８.移動するときは、クローラ内に粉砕物等を堆積させないでください。誘導輪とクローラの間に挟まった状態では、無理な回転がかかることになりミッション破損の原因となります。

１９.この機械を公道でけん引することはできません。

２０.公道で走行することはできません。移動時はトラック等に積み込んで移動してください。

２１.トラックなどへの積み降ろしは危険です。後進（１速）でゆっくり積み、前進（１速）でゆっくり降ろし転落しないように十分注意してください。トラックは辺りが見通しがよい平坦な場所に停止し、駐車ブレーキと車止めをしてください。
ブリッジは表示積載荷重が本機重量以上の表示のものを１８°以内にセットしてください。

２２.けん引をする場合は、けん引を行うに十分な駆動力と制動力を持った車両を使用して慎重に行ってください。特に坂道等を下るときは、速度が増さないように慎重に下るようにしてください。

２３.ユニック等で本機をトラックなどへ積み降ろしを行う場合は、トラックを平坦なところに停車し、駐車ブレーキと車止めをして、バランスに気を付け転落しないように十分注意してください。

２４.部品が変形した状態、または部品が欠品になっている状態で、機械を絶対に運転しないでください。

２５.改造は一切してはいけません。

２６.エンジンを始動させるときには必ず、オペレータはすべての駆動装置を切ってから行ってください。
(1) エンジンを始動させる前にエンジンの取扱説明書をよく読んでエンジンについて精通しておいてください。
(2) 誰も人を付けないで機械を放置して置くときは、次のことを必ず行ってください。
① ロータクラッチレバーを「切」位置にします。
② 走行クラッチレバーを「下」位置にします。
③ 燃料コックを「閉」位置にします。

危険防止のために

２７.平坦で危険のないところで機械の操作の練習を行い、操作に習熟してください。
(1) エンジンの始動、停止とスロットルレバーの調整
(2) ロータクラッチの入切のしかた
(3) 送りローラ操作のしかた
(4) 走行（前進・後進）、停止、旋回のしかた
(5) 変速のしかた
(6) エンジン非常停止のしかた

２８.作業中および刃物の回転中は正面ホッパのチップガードより奥に絶対に手をいれないでください。
短材を投入する場合は棒等で押し込むようにしてください。

２９.材料を送り込む際は、材料が暴れたり、跳ね上がったりする可能性があります。
接触してケガをしないように十分に注意をするとともに、目を保護する保護メガネ、頭部を保護するヘルメット又は作業帽等を着用して作業してください。

３０.粉砕作業は２人以上で行い、単独では行わないようにしてください。安全の為、声をかけ合って作業をしてください。
投入作業は、１人にて行ってください。材料の形状によっては、投入する際、材料が暴れたり、投入口から粉砕物の破片が飛び出してくることがありますので、投入口の正面に立たずに、脇に立って作業を行ってください。

３１.作業時、エンジン停止直後のマフラおよびその周辺は、高温のため触れないようにしてください。

３２.機械から離れる時は、必ずエンジンを停止し、ロータなどの回転部が完全に停止したことを確認して離れるようにしてください。

３３.粉砕された材料は、シュータより勢いよく排出されます。作業にかかる前に、シュータの排出方向を定め、固定ハンドルをしっかり締めてから作業を開始してください。

３４.ホコリや塵がたちやすい場所での作業時は、作業前に、必ず作業場付近に散水してから作業してください。

３５.屋内で作業を行う場合は、ドアや窓を開け十分な換気を行ってください。排気の一酸化炭素は猛毒です。

３６.作業中の点検はエンジンを停止し、回転部が完全に停止している事を確認して行ってください。

３７.作業中は、各部点検カバー・ホッパは絶対に開けないでください。作業中の点検はエンジンを停止し、回転部分が完全に止まってから行ってください。

３８.フィードボックス・送りローラ取付部に直接ふれないようにしてください。ひっかかって、きちんと下がらない場合は、角材・棒等で押して、解除してください。

３９.送りローラの手前で粉砕物が滞留し取出す場合、つまりの原因を解除する場合は、必ずエンジンを停止しロータが完全に停止した事を確認してから詰まりの除去を行ってください。

４０.停止中、運転中にかかわらず、送りローラに触れないようにしてください。

４１.前が見にくいため、作業時は、周りの安全を十分確認の上、作業を行ってください。

４２.エンジン回転中またはロータ回転中に排出口をのぞいたり手や足をいれないでください。

４３.異音がしたり、異常を感じたら作業を終了しエンジンを切り回転部の回転を停止させてください。

危険防止のために

４４.作業終了後の点検・整備の際は、必ずエンジンを停止し、ロータなどの回転部が完全に停止したことを確認してから行ってください。送りローラに挟まれないように注意して行ってください。

４５.作業終了後は、本機各部の清掃・点検及び給油を十分行ってください。特に、エンジンのエアクリーナエレメントは、エンジントラブル防止のため、こまめに清掃してください。

４６.機械の点検整備等をするときは必ずエンジンを停止している事を確認し、ロータなどの回転部が完全に停止している事を確認してから行ってください。
ナイフを扱う際は、必ず保護手袋を着用してください。

４７.エンジンの点検・整備をするときはエンジンが十分冷めてから行ってください。

４８.燃料ホースは２年ごとに交換してください。

４９.燃料は可燃性が高いので注意して扱ってください。
(1) 新しい清浄な燃料のみ使用してください。
(2) 油は決められた燃料容器を使用し、この燃料容器の口はタンク注入口に挿入できるものでなければなりません。挿入できないものであれば、専用の給油ポンプを使用してください。
(3) 給油する際はエンジンを停止して、２分以上冷却してください。スパークプラグ、エンジン本体やエキゾーストパイプにガソリンをこぼさないよう特に注意してください。エンジン始動時の火花による引火や温度上昇による引火のおそれがあります。
(4) エンジン回転中、または熱い間はキャップを外してエンジンに燃料を給油しないでください。燃料がこぼれた場合はきれいに拭き取ってください。
(5) 屋内でタンクに燃料を入れたりしないでください。
(6) 燃料を洗浄剤として使わないでください。
(7) 燃料を扱っているときは、換気の良い所で行い、火気の近くやくわえタバコではしないでください。
(8) 裸照明は絶対にしないでください。
(9) 裸火のある場所または火花を発生する装置の近くに燃料容器を保管しないでください。

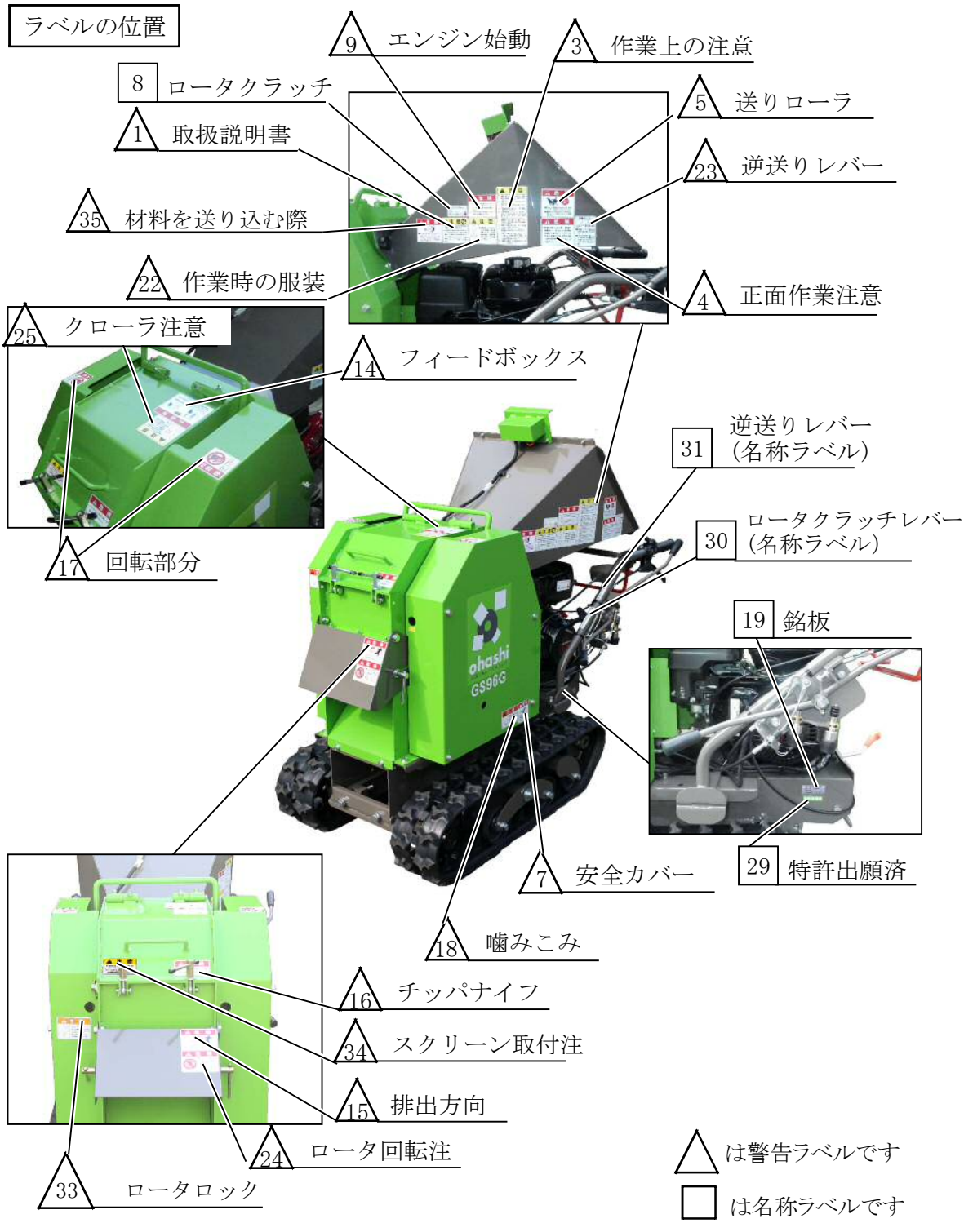
５０.２人以上で整備をするときは声を掛け合い、けがのないよう十分に注意して行ってください。

５１.作業終了後は、本機各部の清掃・点検及び給油を十分行ってください。特に、エンジンのエアクリーナエレメントは、エンジントラブル防止のため、こまめに清掃してください。

５２.屋内に機械を保管するときはエンジンが冷めた事を確認し保管してください。
シートカバーを掛ける時はエンジンが熱いときは掛けないでください。エンジンが冷めた事を確認し掛けてください。

ラベルについて

機械には操作系などのラベルと「注意」「警告」「危険」の警告ラベルを貼付しています。使用前に各ラベルの位置を確認し各ラベルの意味を十分理解しておいてください。万一、ラベルが磨滅したり破損して読めなくなった場合や、はがれて紛失した場合は販売店より、新しくラベルを購入し特に、警告ラベルは「ラベルの位置」に指示してある箇所に確実に貼り、他のラベルについても「ラベルの位置」を参照に貼って常にラベルが読める状態を維持してください。



ラベルについて

機械には操作系などのラベルと「注意」「警告」「危険」の警告ラベルを貼付しています。使用前に各ラベルの位置を確認し各ラベルの意味を十分理解しておいてください。万一、ラベルが磨滅したり破損して読めなくなった場合や、はがれて紛失した場合は販売店より、新しくラベルを購入し特に、警告ラベルは「ラベルの位置」に指示してある箇所に確実に貼り、他のラベルについても「ラベルの位置」を参照に貼って常にラベルが読める状態を維持してください。

ラベルの位置



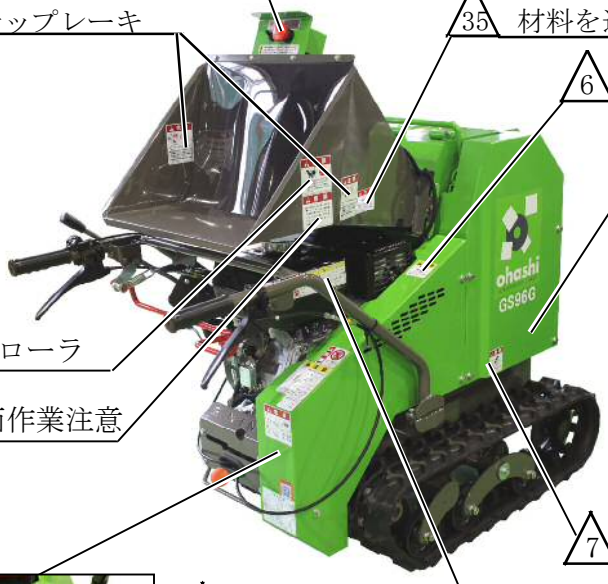
10 エンジン非常停止

26 スイッチ位置

32 チップレーキ

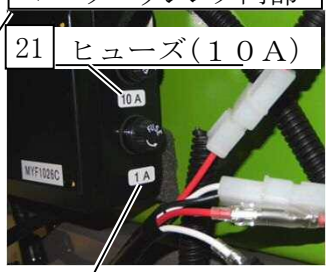
35 材料を送り込む際

6 マフラ高温



ロータハウジング内部

21 ヒューズ（１０Ａ）

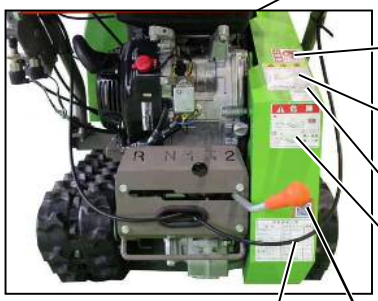


20 ヒューズ（１Ａ）

5 送りローラ

4 正面作業注意

7 安全カバー

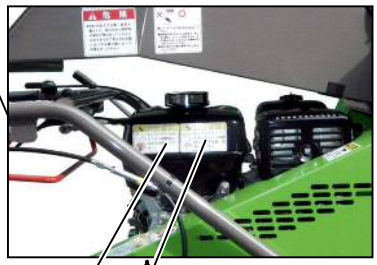


17 回転部分

2 始業前点検

28 走行クラッチレバー

13 積み降ろし



12 エンジンエアクリーナ

11 エンジンオイル

27 消耗部品一覧

36 ＱＲコード

△ は警告ラベルです

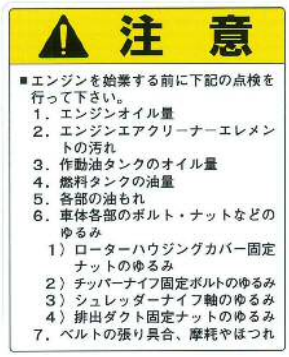
□ は名称ラベルです

ラベルについて

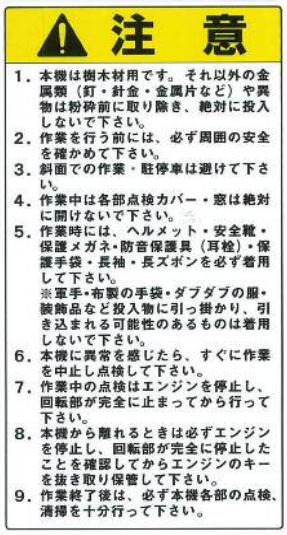
1 取扱説明書



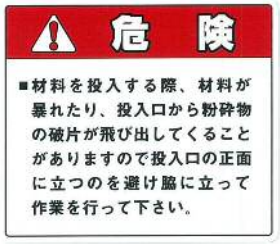
2 始業前点検



3 作業上の注意



4 正面作業注意



5 送りローラ



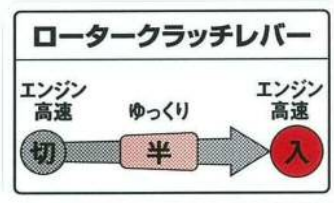
6 マフラ高温



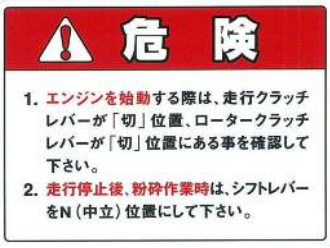
7 安全カバー



8 ロータクラッチ



9 エンジン始動



ラベルについて

10 エンジン非常停止



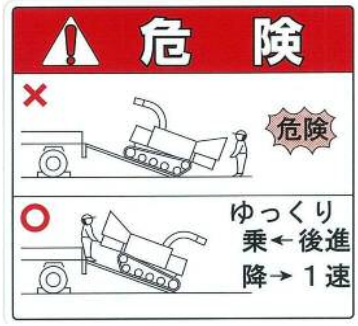
11 エンジンオイル



12 エンジンエアクリーナ



13 積み降ろし



14 フィードボックス



15 排出方向



16 チッパナイフ



17 回転部分



18 噛みこみ

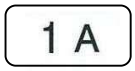


ラベルについて

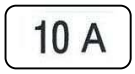
19 銘板



20 ヒューズ



21 ヒューズ



22 作業時の服装



23 逆送りレバー



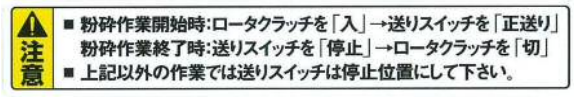
24 ロータ回転注意



25 クローラ注意



26 スイッチ位置



27 消耗部品一覧

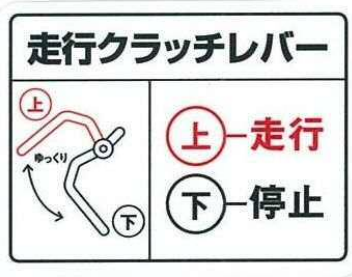


消耗部品一覧 96

品　名	サイズ・ナンバー	数量
ロータベルト	3V−2R−710	1
走行ベルト	SA−36	1
エンジンベルト	SA−47	1
電磁クラッチベルト	SB−36	1
逆転ベルト	SA−23	1
Fローラチェーン	50−44	1
第二軸チェーン	40−68	1
エンジンオイル	SE級以上	1.1L
走行ミッションオイル	ギヤオイル#80	0.7L

ラベルについて

28 走行クラッチレバー



29 特許出願済



30 ロータクラッチレバー



31 逆送リレバー



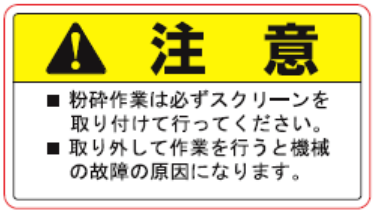
32 チップレーキ



33 ロータロック



34 スクリーン取付注意



35 材料を送り込む際



36 ＱＲコード



本機の使用目的・主要諸元

本機の使用目的

本機は、平坦地での使用を前提とし、樹木材を粉砕、減容化する事を目的とした機械です。土・砂・石・金属・ビン・樹脂・焼き物等は絶対に混入しないでください。
本機を使用目的以外に使用しないでください。

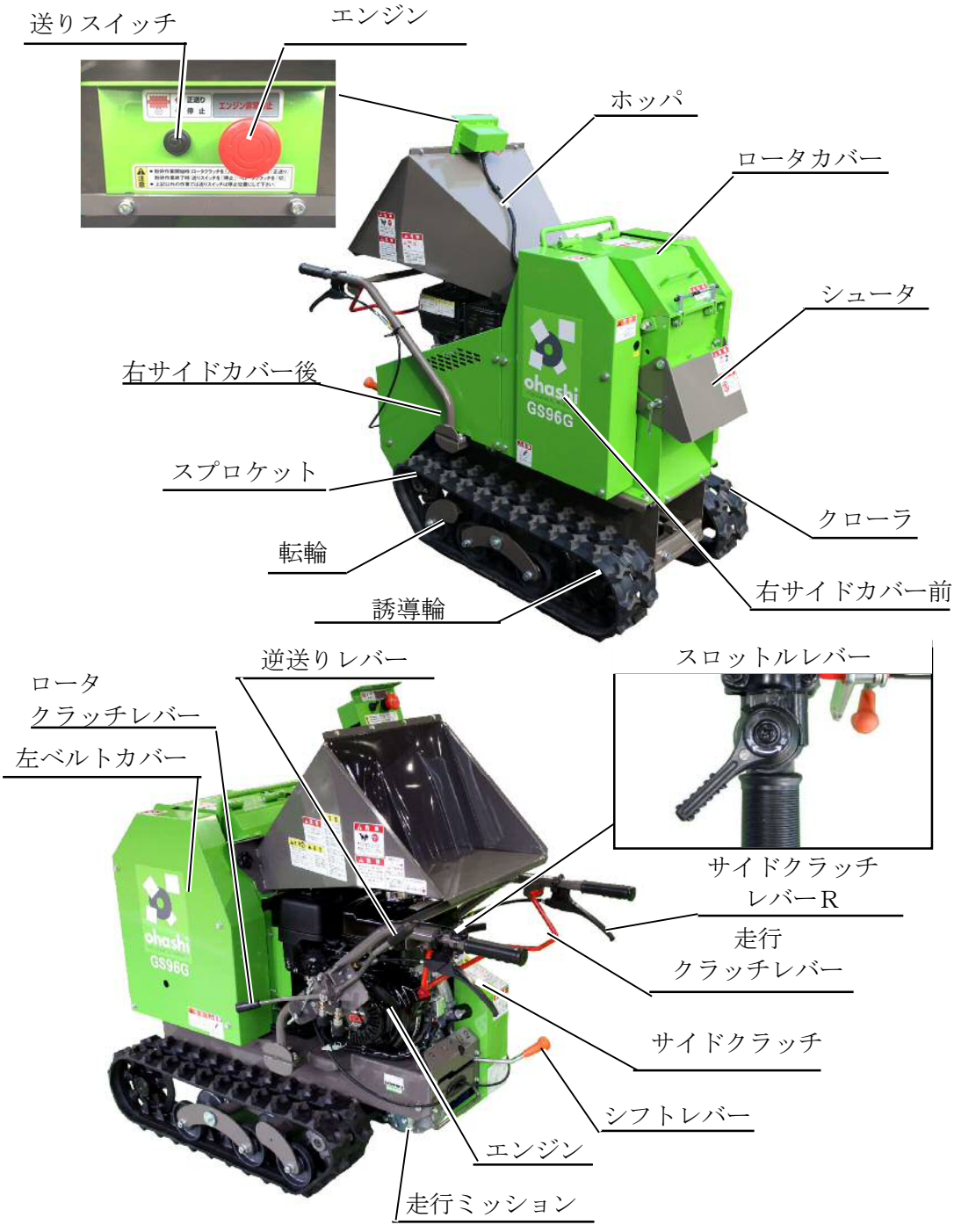
主 要 諸 元

品　　名	樹木粉砕機
型　　式	ＧＳ９６Ｇ
全長×全幅×全高	１４７０×７２０×１３５０ ｍｍ
重　　量	２５０ ｋｇ
駆 動 方 式	テンションクラッチ・Ｖベルト
処 理 径	最大　９０ｍｍ（軟質）
破 砕 刃	チッパナイフ２枚・受刃１枚・シュレッダナイフ８枚
ホッパ口径	４６５×３３０ ｍｍ
送り装置	ブレーキ付電磁クラッチ方式（自動制御付）
排出方式	空気搬送式
シュータ高さ	６５０ ｍｍ
排出角度	可変式
走行方式	ゴムクローラ
走行速度	Ｆ１速　１．３　Ｆ２速　２．７　Ｒ　１．６　　ｋｍ／ｈ
エンジン	ＧＸ２７０
最大出力	８．６（６．３）　ｐｓ（ｋＷ）
点火プラグ	ＮＧＫ　ＢＰＲ　６ＥＳ
燃　　料	自動車用無鉛ガソリン（燃料タンク　５．３リットル）

＊この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。
　尚エンジンにつきましては、エンジン取扱説明書をご覧ください。

各部の名称

機械を見ながら名称を確認ください。



運転を始める前に

機械を調子よく保ち効率的に作業ができるように毎日の作業前には必ず点検・整備を行いましょう。

注 意	安全に運転する為・燃料への引火防止のために、次のことを厳守してください。 １．点検をする時はロータークラッチレバーを**「切」**位置、シフトレバーを**ニュートラル**位置にし、駐車ブレーキをかけてから行ってください。 ２．本機は**樹木材用**です。それ以外の金属類（釘・針金・金属片・ロープ・ひも・土・砂・石・セメント・ビンなど）や異物は粉砕前に取り除き、絶対に投入しないでください。 ３．作業を行う前には、必ず**周囲の安全**を確かめてください。（公園など、公共施設での作業の場合は、特に周囲の安全確認を徹底してください。 ４．**斜面**での作業・駐停車は避けてください。 ５．作業中は**各部点検カバー**は絶対に開けないでください。 ６．作業時には、**ヘルメット・安全靴・保護メガネ・防音保護具（耳栓）・保護手袋・長袖・長ズボン**を必ず着用してください。 ７．軍手・布製の手袋・ダブダブの服・装飾品など投入物に引っ掛かり、**引き込まれる可能性**のあるものは着用しないでください。 ８．エンジンを始動する際は、走行クラッチレバー**「下」停止位置**、ロータクラッチレバーが**「切」**位置にある事を確認してください。 ９．**異常**を感じたら、すぐに作業を中止し点検してください。 １０．作業中の点検はエンジンを停止し、**回転部が完全に止まってから行ってください。** １１．本機から離れるときは必ずエンジンを**停止**し、回転部が完全に停止したことを確認してください。 １２．作業終了後は、必ず本機各部の**点検・清掃**を十分行ってください。 １３．エンジン**回転中**やエンジンが**熱い間**は注油・給油及び点検整備は絶対してはいけません。 １４．燃料の運搬や補給などの取扱い時は、**くわえ煙草・裸照明**は絶対してはいけません。 １５．操作系の点検は一部試走確認点検が必要であるため、平坦で広く障害物のない**安全な場所**で行ってください。その際整備が必要な場合は1. 項目内容を厳守してください。 １６．取外したカバー類は、**元通りに**装着してください。

運転を始める前に

始　業　点　検

NO.	ここを		こんな点検をして	こう処置する
1	エンジン	燃料タンク	必要な量の燃料があるか 燃料もれはないか	補給する。整備する。 ・レギュラガソリン
		クランクケース	注油口の口元まで油量があるか。汚れていないか	補給する。汚れがひどければ交換する。 ・エンジンオイル（１．１Ｌ） ＳＥ級以上、エンジン取扱説明書参照
		エアクリーナエレメント	ゴミの付着や汚れがないか	エアクリーナエレメントのゴミを除去し、きれいに清掃する。 エンジン取扱説明書参照
2	操作系	ロータクラッチレバー	入切が確実に行えるか	適正に調整する
		走行クラッチレバー（駐車ブレーキ）	遊びしろは適正か ブレーキの効きは十分か	適正に調整する
		サイドクラッチレバー	左右の旋回はスムーズに行えるか	適正に調整する
3	チッパナイフ		取付ボルト・ナットのゆるみはないか 刃こぼれ、ひび等がないか	増締めする （締付トルク１１０N･m） 反転、又は交換する
4	受刃		取付ボルトのゆるみはないか 刃こぼれ、ひび等がないか	増締めする （締付トルク１１０N･m） 反転、又は交換する
5	走行ミッション		オイルは規定量入っている	補給する ・ギヤオイル#８０（０．７Ｌ）
6	クローラ		張りは適正か。 スチールコード・ゴムの破損、劣化はないか	張りを正しく調整する 交換する
7	ロータベルト		張りは適正か。磨耗やほつれはないか	張りを正しく調整する 交換する
8	重要なボルト・ナット ・ エンジン取付ボルト ・ロータハウジング取付ボルト ・ロータカバー固定ナット		取付ボルト・ナットのゆるみはないか	増締めチェックする
9	各ワイヤ・レバー・支点及び磨耗部・しゅう動部		潤滑油が不足していない 適正に作動が行えるか	適量注油する 適正に調整する ギヤオイル＃８０、WD-４０など

※処置をしても直らない場合は、販売店へご相談ください。

上手に運転するには（１）

⚠ 注　意

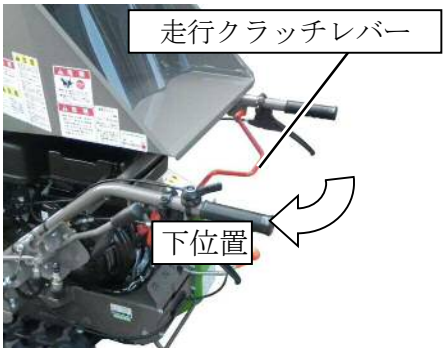
■エンジンを始業する前に下記の点検を行って下さい。
1．エンジンオイル量
2．エンジンエアクリーナーエレメントの汚れ
3．作動油タンクのオイル量
4．燃料タンクの油量
5．各部の油もれ
6．車体各部のボルト・ナットなどのゆるみ
　1）ローターハウジングカバー固定ナットのゆるみ
　2）チッパーナイフ固定ボルトのゆるみ
　3）シュレッダーナイフ軸のゆるみ
　4）排出ダクト固定ナットのゆるみ
7．ベルトの張り具合、摩耗やほつれ

⚠ 危　険

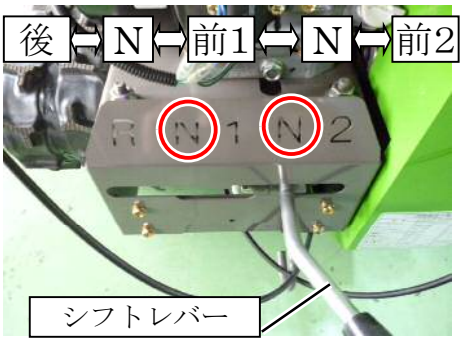
1. **エンジンを始動**する際は、走行クラッチレバーが「切」位置、ロータークラッチレバーが「切」位置にある事を確認して下さい。
2. **走行停止後、粉砕作業時**は、シフトレバーをN（中立）位置にして下さい。

エンジンの始動のしかた

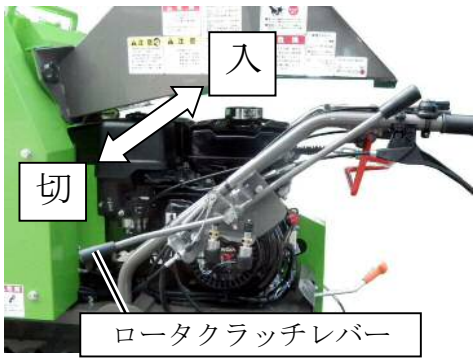
１．走行クラッチレバーを「下」位置にしてください。



２．シフトレバーを「N（ニュートラル）」位置にしてください。

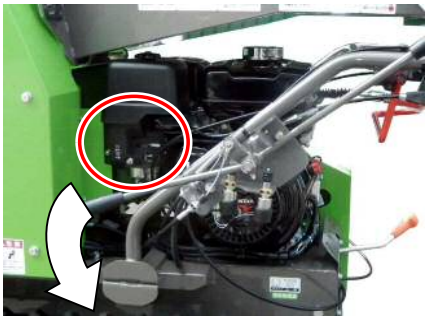


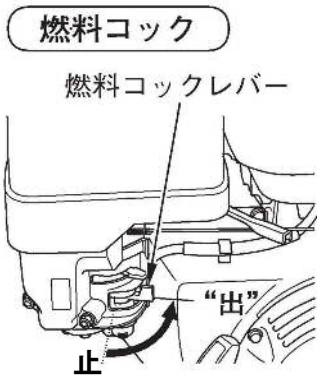
３．ロータクラッチレバーを「切」位置にしてください。



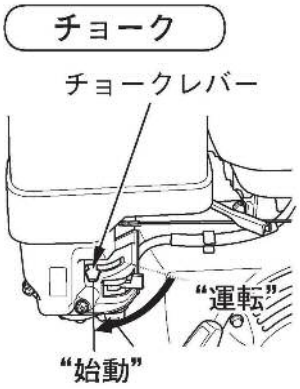
上手に運転するには（１）

４． 燃料コックレバーを〝出〟の位置に合わせます。

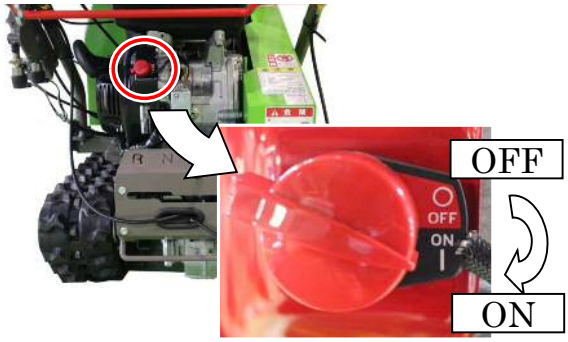




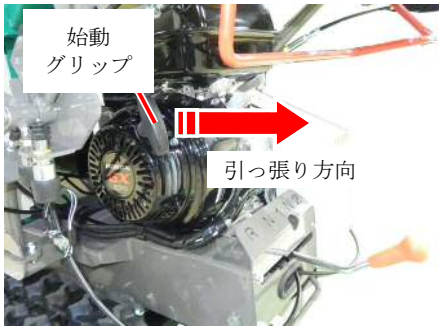
５． 寒いときやエンジンがかかりにくいときにはチョークレバーを〝始動〟の位置にあわせます。エンジンが暖まっているときは操作不要です。



６． エンジンスイッチを「ＯＮ」位置にします。

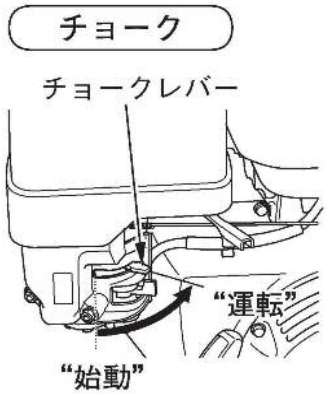


７． 始動グリップを静かに引き、重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。



８． エンジン始動後、負荷をかけずに２～３分程低速で暖気運転をしてください。

９． チョークレバーを〝始動〟にしたときは、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に〝運転〟の方向に戻します。



注　意　１

チョークレバーの開度は、寒い時やエンジンが冷えている時は、〝始動〟位置にしてください。また、暖かい時や運転停止直後、再始動する場合は〝運転〟位置もしくは〝運転〟と〝始動〟の中間の位置にしてください。

注　意　２

リコイル始動を３回以上行っても始動しないとき、続けて何回もリコイル始動していると燃料を吸いすぎ始動困難になりますので、チョークレバーを〝運転〟にし、スロットルレバーを「中」位置から「高」位置にしてからリコイル始動してください。

上手に運転するには（１）

１０． 給油の際は、エンジンを停止しホッパ固定ネジを外して、ホッパを開けてください。



１１． 給油キャップを開けて、給油してください。



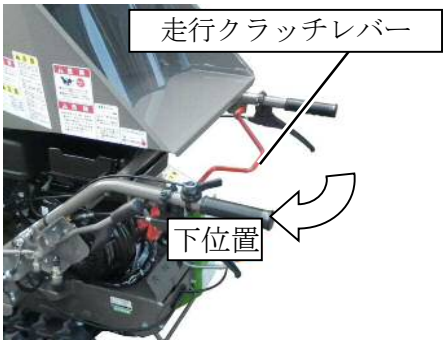
注　　意

移動するときは、クローラ内に粉砕物等を堆積させないでください。誘導輪とクローラの間に挟まった粉砕物等が原因で、無理な回転がかかることになりミッション破損の恐れがあります。

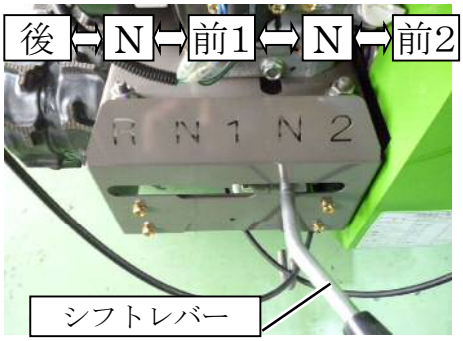
上手に運転するには（１）

発進のしかた

１．走行クラッチレバーが「下」位置にあることを確認してください。

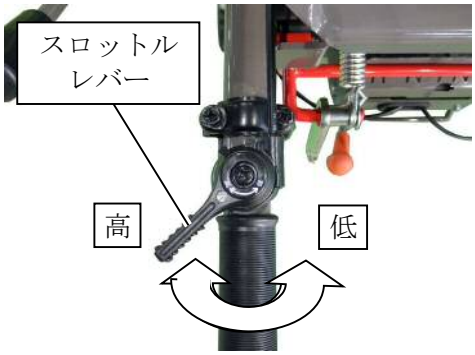


２．シフトレバーを「前１：前進１速」、「前２：前進２速」、「後：後進」のいずれかの位置にしてください。



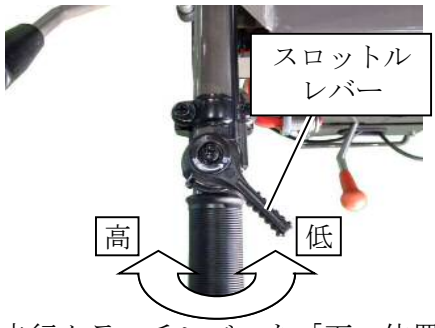
３．走行クラッチレバーをゆっくり「上」の位置にして発進します。

４．スロットルレバーをゆっくり回し、速度を調整します。

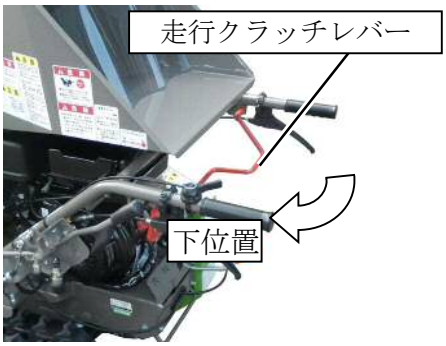


停止のしかた

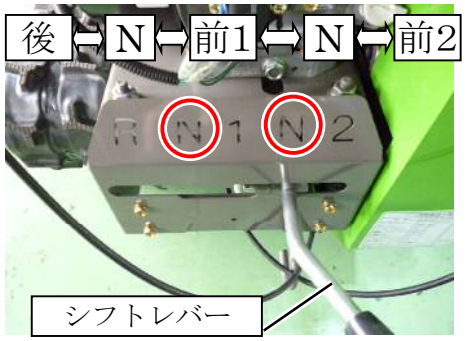
１．スロットルレバーを「低」位置にして減速します。



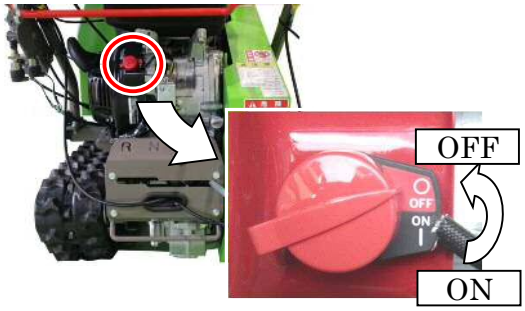
２．走行クラッチレバーを「下」位置にし、平坦地に停車します（同時に駐車ブレーキが掛かります）。



３．シフトレバーを「N（ニュートラル）」位置にします。



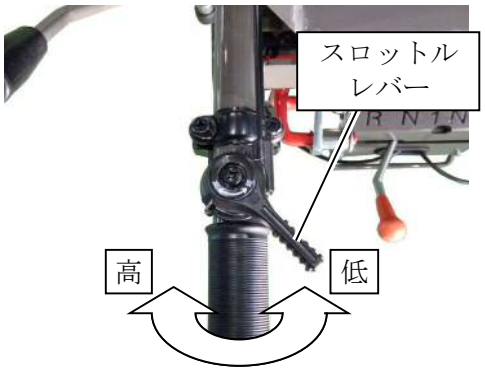
４．エンジンスイッチをＯＦＦの位置にし、エンジンを停止します。



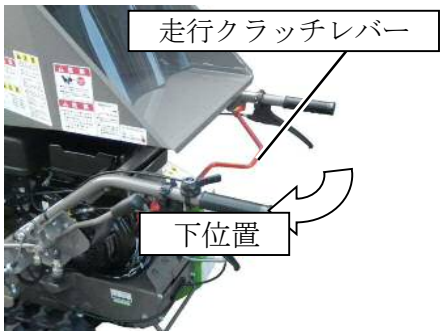
上手に運転するには（１）

変速のしかた

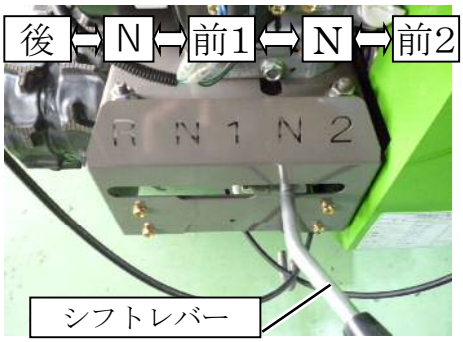
１．スロットルレバーを「低」位置にします。



２．走行クラッチレバーを「下」位置にして停車します。



３．シフトレバーを作業に適した位置に入れます。
「前１」…低速前進　「後」…低速後進
「前２」…高速前進



４．走行クラッチレバーをゆっくり「上」の位置にして発進します。

５．スロットルレバーを動かして速度を調整します。

注 意 １

走行クラッチレバーと駐車ブレーキが連動しており、走行クラッチレバーを「下」位置にすると自動的に駐車ブレーキがかかり、「上」位置にすると解除します。

注 意 ２

走行クラッチレバーと駐車ブレーキが連動しているために、チェンジが入りにくい場合があります。

注 意 ３

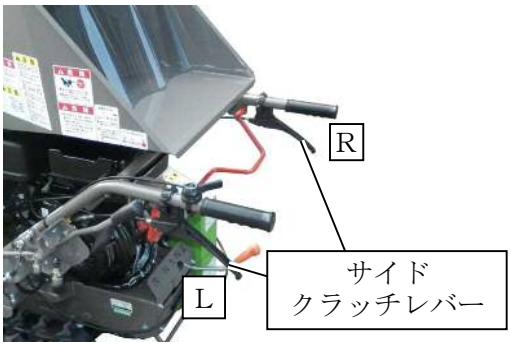
変速は必ず走行クラッチレバーを「下」にしてから操作してください。

上手に運転するには（１）

旋回のしかた

１．左旋回する場合は、サイドクラッチレバーＬを握り込んでください。左側のクローラが停止し、機体は左旋回します。

２．右旋回する場合は、サイドクラッチレバーＲを握り込んでください。右側のクローラが停止し、機体は右旋回します。



注 意 １

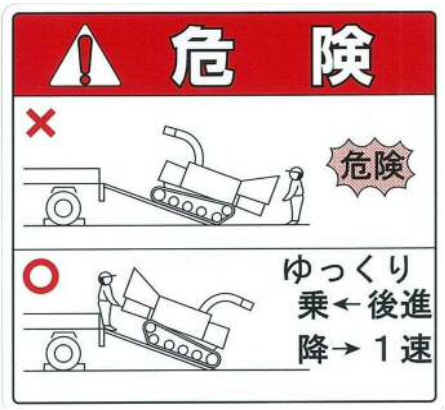
左右のレバーを同時に握り込むと走行は停止します。

注 意 ２

下り傾斜の場合は、逆操作になる場合がありますのでご注意ください。

上手に運転するには（１）

トラックへの積み降ろしのしかた



危　険

■トラックなどへの積み降ろしは危険です。後進でゆっくり積み、前進でゆっくり降ろし転落しないように十分注意してください。
■トラックは平坦な場所に停止し、駐車ブレーキと車止めをしてください。
■ブリッジは表示積載荷重が本機重量以上の表示のものを18°以内にセットしてください。

１．積み降ろしのしかた
(1) 周囲に危険物のない、平坦な場所を選び、操作してください。
(2) トラックは動き出さないようにエンジンを止め、ギヤをバックに入れ、サイドブレーキを引き、さらに「車止め」をしてください。
(3) 基準に合ったブリッジを使用してください。左右のクローラがブリッジの中央に位置するようにセットしてから積み降ろしを行ってください。

２．ブリッジ基準
(1) ブリッジは、強度・幅・長さ・すべり止め・フックのあるものを使用してください。
(2) 長さは、トラック荷台までの高さの３．５倍以上あるものを使用してください。
(3) 幅は、本機のクローラ幅にあったものを使用してください。
(4) 強度は、本機重量および作業者の体重の総和に十分耐え得るものを使用してください。
(5) 表面は、スリップしないように表面処理が施されたものを使用してください。

警告１
運搬に使用する自動車は、荷台に天井のないトラックを使用してください。

警告２
トラックへの積み降ろしは、平坦で安定した場所を選んでください。思わぬ事故やケガをまねく恐れがあります。

警告３
ブリッジのフックはトラックの荷台に段差のないよう又、外れないように確実に掛けてください。

警告４
トラックへの積み降ろしの際、ブリッジ上での方向転換、変速はしないでください。

警告５
本機がブリッジとトラックの荷台との境を越えるときには、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意してください。転倒・転落による事故やケガをまねく恐れがあります。

警告６
トラックに積んで移動するときは、走行クラッチレバーは「下」位置にし、十分に強度のあるロープで確実に固定して荷台の上で動かないよう「車止め」を掛けてください。機械の転落や、本機の運転席への突っ込みによる重大な事故やケガをまねく恐れがあります。

警告７
本機のクローラがブリッジの中央に位置するようにして作業を行ってください。

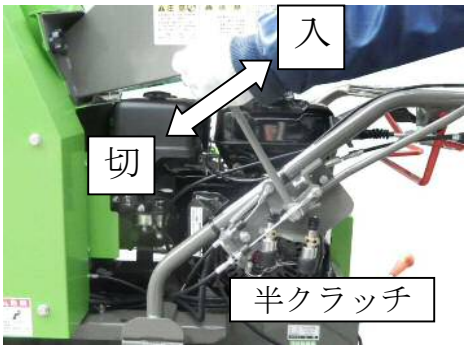
警告８
原則として、積み込む場合は後進で「Ｒ」位置、降ろす場合は前進「前１」位置で行ってください。さらにスロットルレバーは「低」位置にし、ゆっくりと行ってください。

上手に運転するには（１）

ロータクラッチの入・切のしかた

１．ロータクラッチが、確実に切れている事を確認してからエンジンを始動させ、スロットルレバーを「高」位置にして、エンジンをフルスロットルにします。

２．ロータクラッチレバーを「切」と「入」の中間位置（半クラッチ）にゆっくり倒し、エンジン音、ブレ等の様子を見ながら、エンジンが大きくブレない位置で保持します。



３．ロータ回転が上昇し定速になるまでロータクラッチレバーを保持します。

４．定速になったら、ロータクラッチレバーを「入」位置に向けてゆっくり倒します。

５．**粉砕作業はエンジン回転数を最高まで上げて作業を行ってください。**

注　意

急に接続するとエンストを起こしたり、ベルトの破損につながりますので、クラッチ操作は必ずゆっくり行ってください。

６．ロータを停止させる場合は、ロータクラッチレバーを「切」位置にすると、ロータは停止します。

その際にスロットルレバーを「低」位置にするとエンジンブレーキがかかり、ロータの回転をはやく低下させることが出来ます。ロータの回転を十分落としてからロータクラッチレバーを「切」位置にしてください。

【重　要】

粉砕作業中に材料が噛み込みそうな時、又は径が大きくて投入口先より入っていかない時は、下図の様に逆送りレバーを下げて送りローラが逆転する位置でレバーを維持し、材料を取り出してください。取り出し終わりますとレバーから手を離してください。離しますと、送りが正転に切り換りま



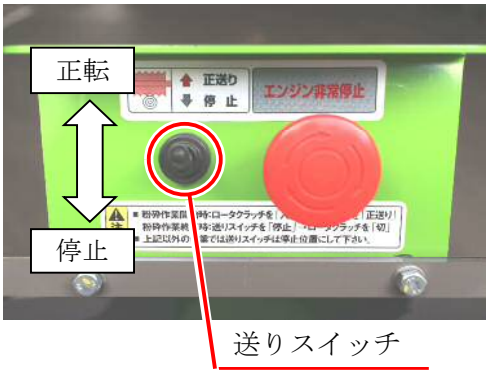
注　意

逆送りレバーの操作は３秒以内で行ってください。
ロータが材料に食い込んで停止した状態では使用しないでください。本機故障の原因となります。

上手に運転するには（１）

送りローラ操作のしかた

１．送りスイッチを「上」位置にすると送りローラは回転し材料をロータ内部へ搬送します。
２．送りスイッチを「下」位置にすると送りローラは停止します。



注 意 １

この機械に投入出来る材料は最大で直径９０ｍｍまでです。それ以上大きい材料がある場合は、投入前に材料を薪割機等で小さく(細かく)してから作業を行ってください。

注 意 ２

送りローラは、マイコンで自動送り制御しています。
負荷によりエンジン回転が落ちると送りローラは自動停止し、エンジン回転が復帰すると回転します。

注 意 ３

粉砕時以外は送りスイッチは「下」位置にして送りローラは停止状態にしてください。エンジン回転が上がると、送りローラは回りだし、ケガや故障の原因となります。

上手に運転するには（１）

エンジン非常停止のしかた

１．エンジン非常停止スイッチを押すと、エンジンが停止します。



２．エンジン非常停止スイッチは、右へ回すと解除します。（スイッチが元の位置に飛び出します。）



注 意 １

エンジン非常停止スイッチを押して、エンジンが完全に回転停止する前にエンジン非常停止スイッチを解除すると、エンジンは再始動しますので注意してください。

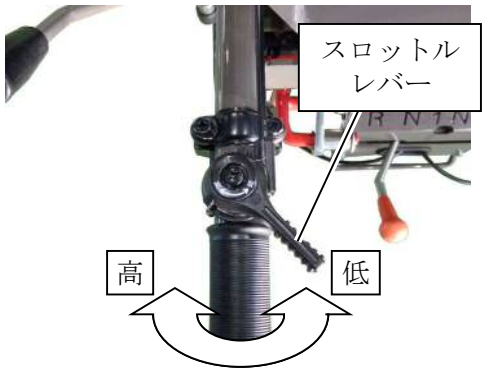
注 意 ２

エンジン非常停止スイッチを押したままだとエンジンはかかりませんので、その場合はエンジン非常停止スイッチを解除してください。

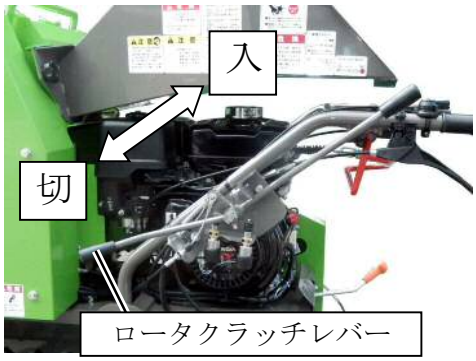
エンジンを再始動する場合は次の手順で行ってください。

１．エンジン非常停止をした原因を確認処置します。

２．スロットルレバーを「低」位置にします。



３．ロータクラッチレバーを「切」位置にしてください。



４．Ｐ１５『エンジン始動のしかた』の手順でエンジンをかけてください。

上手に運転するには（１）

シュータの固定と排出方向

１．粉砕された材料は、シュータより勢いよく排出されますので事故につながる可能性があります。
作業に入る前に、シュータの排出方向を定め、作業中にシュータが動かないようにシュータ固定ハンドルをしっかり締めてから作業を開始してください。



注 意 １
粉砕した材料の排出方向は、エンジンがほこりを吸い込み、トラブルが発生することを避けるために、風向きを考慮し作業位置を工夫して、出来るだけエンジン側にほこりがこないようにしてください。

注 意 ２
前が見にくいため、作業時および走行時は、回りの安全を十分確認の上、作業を行ってください。

２．シュータの角度を変えることにより、チップの排出角度を変えることができます。

粉砕のしかた



１．粉砕作業は平坦地を選び走行レバーが「切」位置、シフトレバーが「Ｎ(ニュートラル)」の位置にあることを確認してください。

２．ロータクラッチを「ロータクラッチの入・切のしかた」（Ｐ２２参照）の手順で「入」にします。

３．送りスイッチを正送り側へまわします。（Ｐ２３「送りローラ操作のしかた」参照）

４．粉砕作業を開始します。

注 意 １
ホッパから投入できる材料は最大で直径９０ｍｍです。それ以上大きな材料の場合は、投入前に材料を小さく(細かく)してから作業を行ってください。

注 意 ２
材料を投入する際に材料が暴れたり、粉砕中にホッパから粉砕物の破片が飛び出してくることがありますので、ホッパの正面に立たずに、脇に立って作業を行ってください。

注 意 ３
粉砕作業の注意点・・・Ｐ３２～参照
・投入物の注意点
・詰まった場合
・その他

上手に運転するには（２）～ナイフの交換手順と注意事項～

受刃の反転・交換・調整

注　　意

1．点検・整備をする時は、ロータクラッチをレバーを「切」位置、走行クラッチレバーを「下」位置、シフトレバーを「ニュートラル」位置にして、エンジンを停止してから行ってください。
2．点検は、回転部が完全に止まってから行ってください。
3．チッパナイフを扱う際は、必ず保護手袋を着用してください。
4．取外したカバー類は元どおりに装着してください。
5．エンジン停止直後のマフラおよびその周辺は、高温のため触れないようにしてください。十分に冷えた事を確認し、点検・整備をしてください。



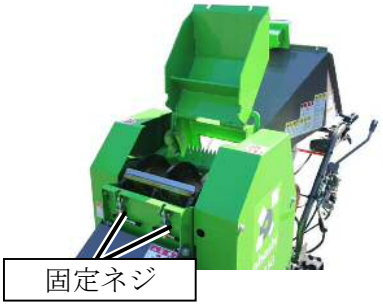
受刃の刃先が丸くなったら受刃を固定しているＭ１２の固定ボルト（２本）を外して、反転または交換してください。
受刃を反転・交換する場合は、以下の要領で行ってください。

≪受刃の反転時間の目安≫

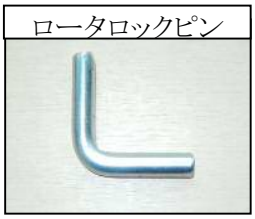
受刃片面約７５時間程度使用可能です。
片面使用後は受刃の反転をしてください。
両面使用後は刃の研磨をする事で再度使用する事が出来ます。

※反転時間に関しては当社の目安になります。機械の使用のしかたや刃の状態によって調整するようにしてください。
なお、この期間はあくまでも目安であり、この期間内に故障しないことをお約束するものではありません。（Ｐ５４『消耗部品一覧』参照）

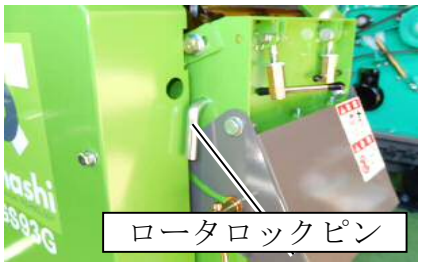
１．ロータカバーの固定ネジを緩め、ロータカバーを開けてください。



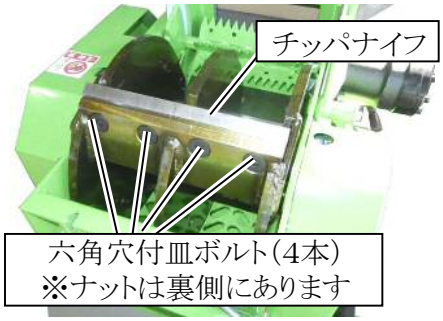
２．ロータロックピンでロータを固定してください。





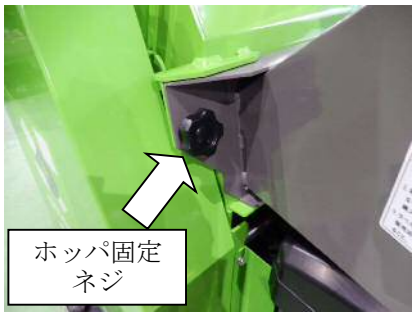


３．チッパナイフ（２枚）の六角穴付皿ボルト・ナットをはずし、チッパナイフを取り外してください。

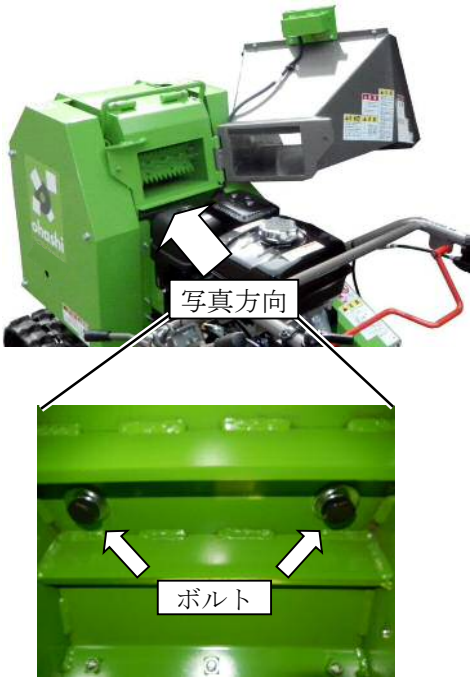


上手に運転するには（２）～ナイフの交換手順と注意事項～

４．　ホッパ固定ネジを外して、ホッパを開けてください。



５．　受刃を固定しているＭ１２の受刃固定ボルト（２本）を下側から外してください。



６．　受刃を反転、または交換しＭ１２の受刃固定ボルト（２本）を軽く締めます。（受刃台座が長穴になっております）

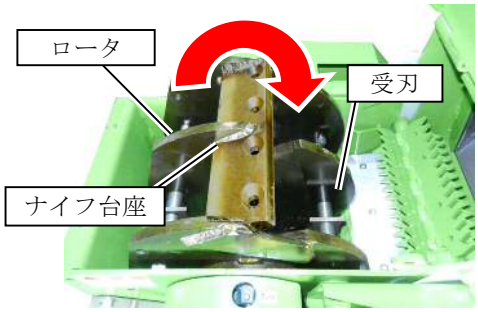
注　　意

(1)　受刃を取替え時（反転、研磨の際）スプリングワッシャは新品と交換してください。

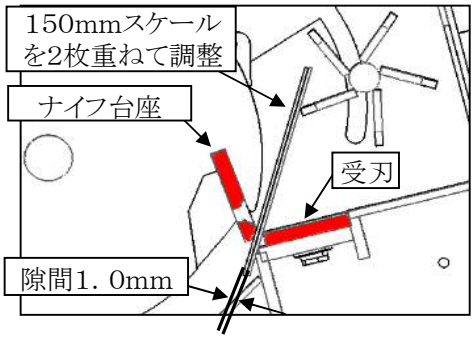
(2)　受刃を新品交換の際はボルト・スプリングワッシャ・座金を新品と交換してください。

(3)　受刃を取り外した時に、付着しているチップの詰り等を取り除いてください。

７．　ロータロックピンを取り外し、手でロータをゆっくり回して、ナイフ台座の一番外周部（下図矢印部分参照）を受刃の位置で止めます。



８．　付属のゲージ２枚を重ねて（１５０ｍｍスケールの厚みで）受刃とナイフ台座の隙間（１．０ｍｍ）を調整します。受刃を動かし隙間調整をしてください。



９．　調整後は**締め付けトルク　110N･m**で受刃の固定ボルト（２本）の締め付けを行ってください。

上手に運転するには（２）～ナイフの交換手順と注意事項～

注　　意

受刃の固定ネジは締め不足、締め忘れのないようにしてください。
作業中に外れると機械が破損するばかりではなく、金属片が飛び出して大変危険です。

１０．受刃の隙間調整を行った後、ロータロックピンでロータを固定して、チッパナイフの取り付けとチッパナイフの隙間調整を行ってください。
※Ｐ２９『チッパナイフの反転・交換・調整』の要領で行ってください。

１１．受刃の反転、または交換後は、ロータロックピンとロータカバー、投入口のホッパを元に戻し、固定ネジをしっかりと締め付けてください。

上手に運転するには（２）～ナイフの交換手順と注意事項～

注　　意
１．点検・整備をする時は、ロータクラッチを「切」位置、走行クラッチレバーを「下」位置、シフトレバーを「ニュートラル」位置にして、エンジンを停止してから行ってください。 ２．点検は、回転部が完全に止まってから行ってください。 ３．チッパナイフを扱う際は、必ず保護手袋を着用してください。 ４．取外したカバー類は元どおりに装着してください。



チッパナイフの反転・交換・調整

チッパナイフが切れなくなると、エンジンに負荷がかかります。
チップが詰まりやすくなったり、騒音や振動が激しくなり、機械各部やベルトにも無理がかかり、寿命が著しく短くなります。
定期的にロータカバーを開け、チッパナイフに歯こぼれ，ひび等の異常がないか点検してください。

≪チッパナイフの反転時間の目安≫

チッパナイフは片面約２５時間程度使用可能です。片面使用後はチッパナイフの反転をしてください。
両面使用後は刃の研磨をする事で再度使用する事が出来ます。

※反転時間に関しては当社の目安になります。機械の使用のしかたや刃の状態によって調整するようにしてください。
なお、この期間はあくまでも目安であり、この期間内に故障しないことをお約束するものではありません。（Ｐ５４『消耗部品一覧』参照）

注 意 1

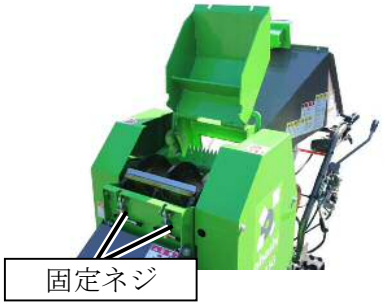
チッパナイフの研磨のご用命は、販売店へお問い合わせください。

注 意 2

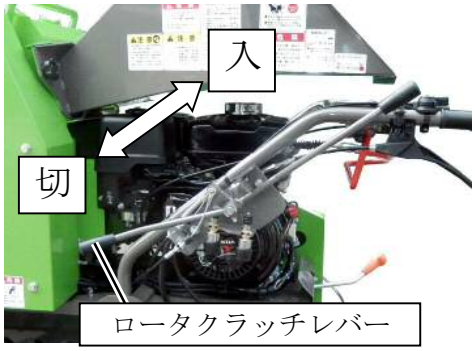
チッパナイフの研磨の際はグラインダーでの研磨は行わないでください。
ナイフ研磨については、２枚同時に専門の業者に依頼してください。
ナイフのバランスが悪くなると異常振動や機械の破損の原因になります。

上手に運転するには（２）～ナイフの交換手順と注意事項～

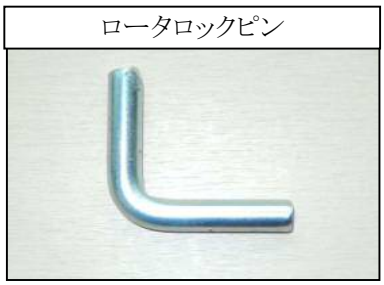
１．ロータカバーの固定ネジを緩め、ロータカバーを開けてください。



２．ロータクラッチレバーを「切」位置にしてください。

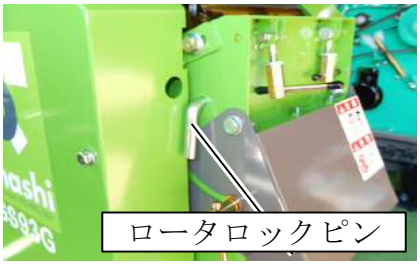


３．ロータロックピンを準備してください。



４．ロータを回しロータロックピンが挿せる位置にしてください。ロータロックピンをロータハウジングの穴位置に差し、ロータが回らないようにロックしてください。





５．チッパナイフに取り付けている六角穴付皿ボルト・ナットを緩め取り外してください。



６．チッパナイフを取り外し、付着しているチップの詰り等を取り除きます。



７．チッパナイフを取り外した状態で、ロータのナイフ台座と受刃の隙間調整をしてください。Ｐ２６『受刃の反転・交換・調整』の要領で行ってください。

上手に運転するには（２）～ナイフの交換手順と注意事項～

８．　ナイフ台座と受刃の調整をした後、チッパナイフを取り付けます。
ロータロックピンを取り付け、チッパナイフを反転、または交換をして取り付けてください。六角穴付皿ボルト（各４本）を２枚とも軽く締めてください。



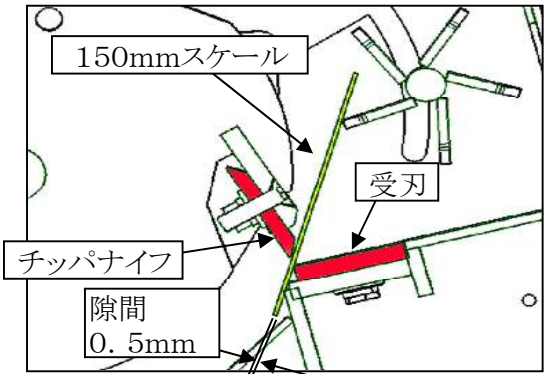
注　　意

(1) チッパナイフを取替え時（反転、研磨の際）スプリングワッシャは新品と交換してください。

(2) チッパナイフを新品交換の際はボルト・ナット・スプリングワッシャ・座金を新品と交換してください。

(3) チッパナイフの反転・交換する際は必ず２枚とも反転・交換をしてください。

９．　チッパナイフの取り付け穴は長穴になっていますので、チッパナイフの位置を動かして隙間調整をします。
付属のゲージ1枚（１５０ｍｍスケールの厚み）を使って受刃とチッパナイフの隙間を調整してください。
ロータロックピンを取り外し、手でロータをゆっくり回して、２枚のチッパナイフと受刃が当たらないことと、隙間が０．５ｍｍあることを確認してください。



１０．調整後、チッパナイフの六角穴付皿ボルト(各４ヶ)を**締付けトルク１１０Ｎ・ｍ**で締めてください。

注　　意

チッパナイフ、受刃の固定ネジは締め不足、締め忘れのないようにしてください。作業中に外れると機械が破損するばかりではなく、金属片が飛び出して大変危険です。

１１．再度手でロータをゆっくり回して受刃に当たらないこと、隙間が０．５ｍｍあることを確認してください。



１２．チッパナイフの反転、または交換、調整後は、ロータロックピンとロータカバー、投入口のホッパを元に戻し、固定ネジをしっかりと締め付けてください。

上手に運転するには（２）

粉砕作業時の注意点

注　　意

１．つまりの原因を除去する場合、ナイフでケガをしないよう、十分に注意して作業に当たってください。

２．短材を投入する際は、棒や角材で押し込むようにしてください。
送りローラの手前で粉砕物が滞留し取出す場合、また粉砕物のまきつきやつまりの除去をする場合は必ずエンジンを停止させ、送りローラ及びロータの回転が停止した事を確認してから処理してください。

３．材料を送り込む際は、材料が暴れたり、跳ね上がったりする可能性があります。
接触してケガをしないように十分に注意をするとともに、目を保護する保護メガネ、頭部を保護するヘルメット又は作業帽等を着用して作業してください。

４．粉砕する材料に金属類（釘・針金・金属片・土・砂・石など）や異物が混入していないことを確認のうえ、作業を行ってください。

５．粉砕作業は、

１）シフトレバーはＮ（ニュートラル）位置、走行クラッチレバーは「下」位置で行ってください。

２）スロットルレバーは「高」位置にして、フルスロットル状態で作業を行ってください。

３）１Ａヒューズが切れると、自動送り制御が働かず、エンジンストップに至る場合があります。

６．住宅地での作業では、周りへの騒音に注意を払ってください。

注　　意

７．作業時、エンジン停止直後のマフラおよびその周辺は、高温のため触れないようにしてください。

８．危険防止のために（Ｐ１～Ｐ４）、運転を始める前に（Ｐ１３）を再読してください。

９．粉砕作業は、必ずスクリーンを取り付けて行ってください。







上手に運転するには（２）

１．つまり防止の方法

つまりの発生を防止するために、『Ｐ３２粉砕作業の注意点』及び下記の事項に十分注意の上、作業を行ってください。

(1) ロータが完全に回り出してから粉砕作業を開始してください。

(2) 作業時は、半クラッチやクラッチを切った状態での使用を避け、必ずロータクラッチレバーを「入」位置にして接続した状態で使用してください。

(3) スロットルレバーは「高」位置にして、フルスロットル状態で作業してください。**エンジンの回転数が低いと送りローラが正転しません。**

(4) ロータベルトの張り点検を行い動力が十分伝わる状態で使用してください。（エンジン及びロータが完全に止まっていることを確認の上、点検してください。）

(5) 粉砕材料（特に枝、葉）が、雨や水に濡れている場合は、粉砕作業はできません。

重　要

葉っぱや草、幹が細く軟らかい材料ばかりを続けて粉砕していると中で詰まったり、送りローラの手前で詰まって入っていかない事があります。
なるべく幹が太い材料や堅い材料を混ぜて粉砕を行うとスムーズに粉砕できます。

重　要

詰まったり引っ掛かったりした際は必ずエンジンを停止させ、回転が止まった事を確認してから除去作業を行うか、棒状の枝等で押し込んだり引き出すようにし、決してエンジン始動中に手を入れて取り除かないようにしてください。

２．噛みこみ解除のしかた

材料が送りローラに噛みこんだままエンジンが停止した場合、『Ｐ３２粉砕作業の注意点』を十分注意の上、作業を行ってください。

(1) ロータクラッチレバーを「切」にしてください。

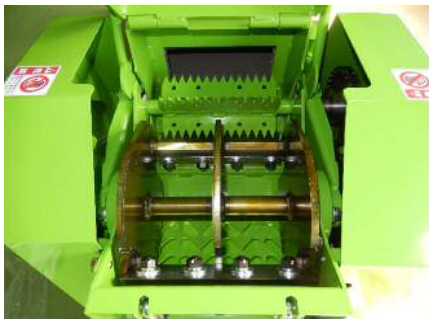
(2) 本機に付属の工具を下図のように差し込み反時計回りに回してください。

(3) 送りローラが逆転をし噛み込みが解除されます。



(4) ロータカバーの固定ナットを緩めロータカバーを開きます。

(5) ロータハウジング内の粉砕物を取り除いてください。



(6) ロータカバーを閉め固定ナットを締めます。

上手に運転するには（２）

３．ひっかかり除去のしかた





(1)　ひっかかりを除去した際に、送りローラ部が所定の位置まで下りますが、その際に手等がはさまれる恐れがあり大変危険ですので、フィードボックス･送りローラ取付部に直接触れないようにしてください。

(2)　材料等がひっかかって、送りローラ取付部がきちんと下がらない場合は、角材･棒等で押して、解除してください。



(3)　停止中･運転中にかかわらず、送りローラに触れないようにしてください。

(4)　整備を行なう時は、エンジンを停止して、送りローラにはさまれないように注意してください。

(5)　ひっかかりを除去する際は、送りローラが落下してきて手等がはさまれたりすることがないように十二分に注意して作業を行なってください。



(6)　エンジン回転中及びロータ回転中に排出口をのぞいたり手や足を入れないでください。

定期の点検・整備をするには

調子よく作業するために、定期的に行いましょう

注　　意

ケガの防止や燃料への引火防止のため、点検・整備を行うにあたり、次のことを厳守してください。

1．点検・整備をする時は、ロータクラッチレバーを「切」位置にし、シフトレバーを「N（ニュートラル）」位置にしエンジンを停止してください。回転部が完全に停止している事を確認してから行ってください。
2．エンジン回転中やエンジンが熱い間は注油、給油は絶対行わないでください。
3．燃料の取扱い時やエンジンの整備時はくわえ煙草・裸照明は絶対しないでください。
4．操作系の点検は、一部走行試験が必要であるため、平坦で広く障害物のない安全な場所で行ってください。その際整備が必要な場合は１．項目内容を厳守してください。
5．　取外したカバー類は元どおりに装着してください。

オイル交換

　オイル交換の際には次のことに注意して行ってください。

1．古くなったオイルは、機械の性能を落とすだけでなく故障の原因となります。定期的に古いオイルを抜き取り、新しいオイルを規定量給油してください。

2．オイルの抜き取りはオイルが暖かいうちに行うと容易に抜くことができます。

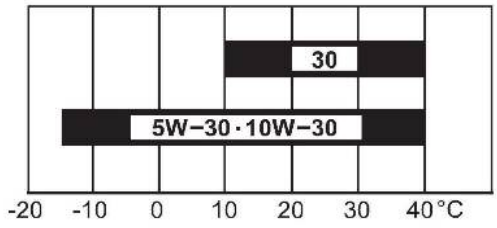
注　　意

作業直後は、高温のため危険です。しばらくたってから交換作業してください。

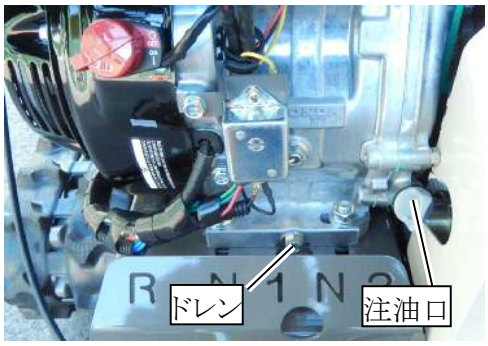
3．エンジンオイルの質および量の低下は焼付トラブルを招きます。オイルの品質はＳＥ級以上の良質のもので外気温度に応じて、純正オイル、または、自動車用エンジンオイルを使用してください。

4．マルチグレードを使用する場合、外気温が高いときオイルの消費量は増す傾向にありますので注意してください。

エンジンクランク室		
オイル		Ｈｏｎｄａ純正ウルトラU汎用（ＳＡＥ１０Ｗ－３０）またはＡＰＩ分類ＳＥ級以上のＳＡＥ１０Ｗ－３０
規定量		１．１リットル(ゲージ付)
交換時間	初回	１ケ月目または２０時間運転目
	２回目以降	６ケ月毎または１００時間運転毎



エンジン



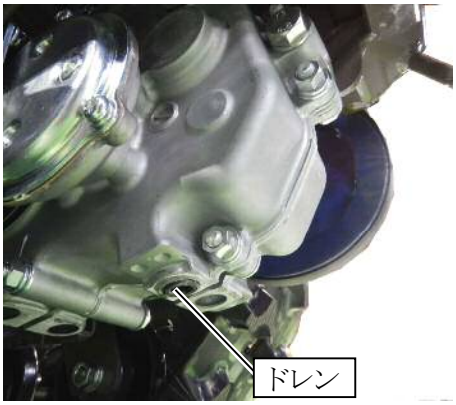
※エンジンオイルの交換はＰ４４『エンジン』の項をご参照ください。

定期の点検・整備をするには

走行ミッション		
オイル		ギヤオイル＃８０
規定量		０．７リットル
交換時間	初回	５０時間目
	２回目以降	２００時間毎（走行）

走行ミッション





定期の点検・整備をするには

走行クラッチ

警　告

走行クラッチの入・切があまいと本機の走行や停止の作動に支障をきたす恐れがあり大変危険です。
走行や停止の作動に異常を感じたときには即座に下記の調整を行い、常に安全を心掛けるようにしてください。

走行クラッチの調整

1．走行クラッチレバーを「上」位置にしてください。（走行クラッチが入ります）

2．右サイドカバー（前）、右サイドカバー（後）を固定しているＭ８のボルト（７本）を緩め、外します。

3．走行ベルトの張りが弱い場合、ワイヤアジャスタを伸ばして調整します。調整後ロックしてください。



4．走行クラッチレバーを「下」位置（走行クラッチが切れます）にしてエンジン始動の要領でエンジンを始動し、走行ベルトクラッチが確実に切れることを確認してください。

5．走行クラッチベルトの張りがワイヤアジャスタで張れなくなった場合は、ベルトが伸びています。新品のベルトと交換してください。

※ ベルト型番はＰ５４『消耗部品一覧』を参照してください。

サイドクラッチ

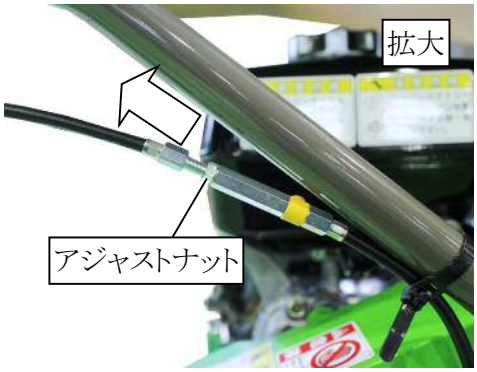
サイドクラッチワイヤが伸びて、効きが甘くなった場合、又は旋回がスムーズに行えない場合には、下記の要領で調整してください。

サイドクラッチの調整

(1) まず、ギヤボックス内のギヤをうまくかみ合った状態にするため、サイドクラッチレバーを操作しないで、２～３ｍほど前･後進してから停止してください。

(2) サイドクラッチレバーの遊び(ガタ)がなくなるようにワイヤのアジャストナットで調整します。





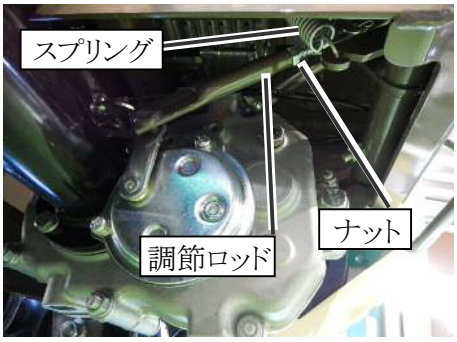
定期の点検・整備をするには

駐車ブレーキ

ブレーキの効きが甘いと非常に危険です。逆にブレーキを引きずると本機故障の原因となりますので、ブレーキの利き方に異常を感じたときには即座に下記の調整を行い、常に安全を心掛けてください。

１．調節ロッドの調整

走行クラッチレバーは、ブレーキと連動しており走行クラッチレバー「切」でブレーキが効きます。走行クラッチレバー「切」でスプリングの伸びが１ｍｍになるように調節ロッドにて調整してください。調整後は、確実にアジャストナットを締めこんでください。



２．駐車ブレーキシューの点検と交換

駐車ブレーキの点検は３ヶ月毎に行ってください。

(1) シューの使用限度厚みは１．５ｍｍですが、２ｍｍ以下の場合は新品と交換してください。新品との交換が済むまで機械の使用を控えてください。

(2) 駐車ブレーキの効きが甘い場合やシューが焼けている場合は、シューの厚みが使用限度内であっても、新品と交換してください。その他、ドラムの消耗、変形、大きな傷、ひび割れスプリングの破損やへたり、カムレバー(走行ミッションの駐車ブレーキアーム)のカム磨耗などがある場合は新品と交換してください。

(3) シュー交換後に、駐車ブレーキレバー引代調整を行ってください。

(4) ブレーキが引きずる場合、(３)と同じ要領でワイヤを緩む方向に動かします。

(5) 調節ロッドの調整代がなくなった場合は、駐車ブレーキワイヤを交換し駐車ブレーキレバーの引き代調整を行ってください。
また、シューの磨耗が大きいと考えられますので、走行ミッションのシューの点検を行ってください。

定期の点検・整備をするには

ロータクラッチ

ロータベルトが伸びるとベルトの張りが弱くなり、駆動力の伝達能力の低下やベルトの早期磨耗を引き起こす原因となりますので、定期的に点検・調整を行ってください。

１．ロータクラッチワイヤの張り調整

(1) ロータクラッチワイヤのアジャスタのロックナットを緩めてください。

(2) ロータベルトの張りが弱い場合、ワイヤアジャスタを動かし、ワイヤが伸びる方向へ調整し、ロータクラッチレバー「入」位置で、テンションプーリの反対側のベルト中央を指で軽く押さえたときのたわみ量が１０～１５ｍｍになり、「切」位置で確実にベルトが切れるようにしてください。

２．ロータベルトの張り直し

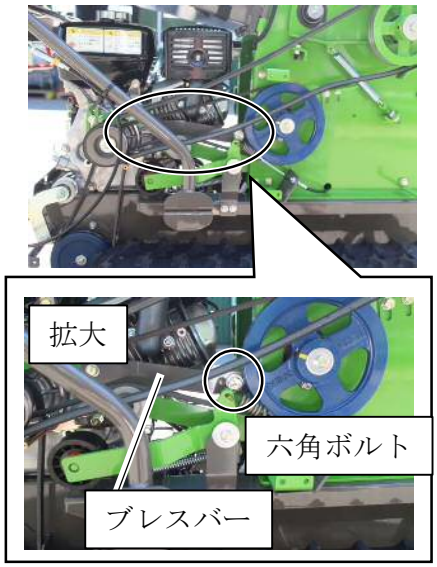
ロータクラッチレバー「入」位置で、ロータクラッチワイヤアジャスタの調整代がなくなった場合は、次の手順でベルトを張り直してください。

(1) ロータクラッチレバーを「切」位置にしてください。

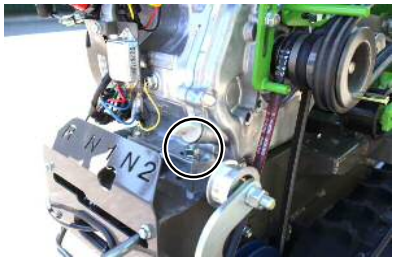
(2) 右サイドカバー（前）（後）を外してください。

(3) ロータクラッチワイヤのアジャスタをベルトの張りが弱くなる方向にネジ部いっぱいに動かしてください。

(4) ブレスバーを取付しているボルトを緩めてください。



(5) エンジンベースを固定しているＭ１０の固定ボルト（４ヶ）を緩めてください。



(6) エンジンをベルトが張る方向へ動かし、ロータベルトをエンジン側に軽く引いてエンジンプーリとベルトのすきまが２～３ｍｍになるよう調整し、エンジンベースの固定ボルトを締め付けてください。

(7) エンジンの固定ナットとブレスバーの固定ボルトを締め付けてください。

(8) **１．ロータクラッチワイヤの張り調整**の要領でロータクラッチワイヤの張り調整を行い、ベルト支エの位置調整を行ってロータクラッチレバー「切」位置で確実にベルトがきれるようにしてください。

(9) 右サイドカバー（前）（後）を元どおりに装着してください。

3．ロータベルトの交換

ロータクラッチレバー「入」位置で、ロータクラッチワイヤアジャスタの調整代がなくなった場合や、ベルトが摩耗やほつれたりした場合は、次の方法で新しいベルトと交換してください。

※ ベルト型番はＰ５４『消耗部品一覧』を参照してください。

(1) ロータクラッチレバーを「切」位置にしてください。

(2) 右サイドカバー（前）（後）を外してください。

(3) ロータクラッチワイヤのアジャスタをベルトの張りが弱くなる方向にネジ部いっぱいに動かしてください。

(4) ブレスバーを取付しているボルトを緩めてください。

(5) エンジンベースを固定しているM10の固定ボルト（４ヶ）を緩めてください。

(6) Ｒベルトホルダを固定しているM10の固定ボルトを外し、Ｒベルトホルダを外してください。

(7) 古いロータベルトをエンジンプーリ側から外し、新しいロータベルトをロータプーリ側から取り付けます。

(8) ２．ロータベルトの張り直しの要領でロータベルトの張り調整を行ってください。

４．ロータクラッチの「切」確認

調整が終わったらロータクラッチレバーを「切」位置にしたとき、ベルトのつき回りがないことを確認してください。

(1) 右サイドカバーは取り付けず、ロータクラッチレバーを「切」位置にしてください。

(2) 燃料コックを「開」位置にし、エンジンスイッチを「ＯＮ」位置にしてください。

(3) エンジンを始動させ、スロットルレバーを「高」位置エンジンをフルスロットルにします。

(4) ロータクラッチレバーを除々に「始動時」－「入」位置にしてください。

(5) ロータクラッチレバーを、ゆっくり操作し「入」位置、「切」位置を繰り返し、確実に、ロータクラッチが切れることを確認してください。

(6) ロータクラッチが切れなかった場合は、エンジンを停止し、燃料コックを「閉」位置にして、ロータベルトのワイヤアジャスタでベルトの張り具合と各ベルト支えの位置を再調整して、確認作業を行ってください。

(7) 調整が終わったら、右サイドカバーを元どおりに装着してください。

注　意

ベルトの装着方向は、プーリの回転方向でベルトの印刷文字の頭がくるようにしてください。逆にすると、寿命が短くなります。

定期の点検・整備をするには

チェーン

チェーンの注油が正常でないと、チェーンの伸び、磨耗が早まります。
オイル切れがないように、定期的に注油してください。

(1) 注油の前にチェーンから異物や汚れをできだけ取り除きます。

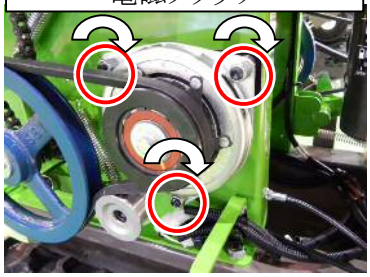
(2) 機械油ＳＡＥ２０または、大同チェーンルーブをチェーンの前面に注油します。

チェーンが正しくスプロケットと噛み合っていない場合は正しく噛み合わせてください。
また、チェーンが破損した場合や伸びたり磨耗し正しく噛み合わせる事が出来なくなった場合は、チェーンを交換してください。

電磁クラッチ

送りローラの正転が回ったり回らなかったりする場合は下記写真のナット３個を時計周りに回し、締めてください。

電磁クラッチ

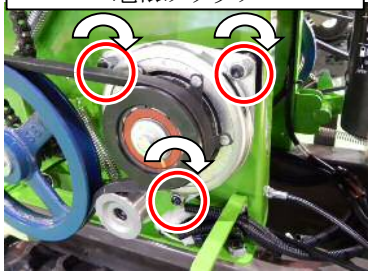


注　意

締めすぎると、噛み込み解除時のハンドルを回す時に重くなり回しづらくなります。締める角度を加減してください。

噛み込み解除時にハンドルが重い場合はナット3個を反時計回りに回し、緩めてください。
３個を同じ角度で少しづつ緩めていくと噛み込み解除ボルトで固定しているプーリを軽く回せるようになります。

電磁クラッチ



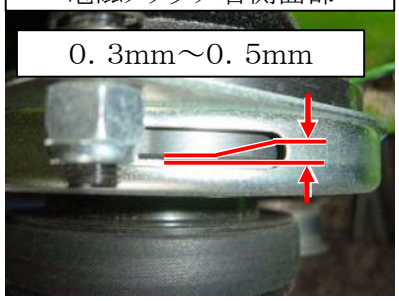
注　意

緩めすぎると、送りローラが回転しなくなります。緩める角度を加減してください。

≪調整の目安≫

下図の様に矢印間のクリアランスを０．３mm～０．５mmに調整します。
※クリアランスを調整する穴は３ケ所あります。

電磁クラッチ右側面部



定期の点検・整備をするには

クローラ

クローラは新品時には初期伸びが、使用時間の経過とともにスプロケットとのなじみによる緩みが生じてきますので、常に点検・整備を行い正常な状態を保つとともに、異常が確認された場合、次の要領で早急にクローラの張りを調整してください。

１．車体を水平な場所に置きます。

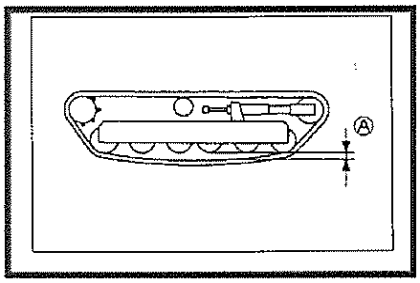
２．ジャッキアップ等して片側のクローラを地面から平行に浮かせます。

注 意 １

ジャッキ等が外れないように十分注意してください。

３．クローラ張りボルトのロックナットを緩めます。

４．クローラ張りボルトを回して、クローラと転輪の隙間（図示Ａ）が１０～１５mm程度（転輪が水平な状態で）になるよう調整します。



５．調整後、ロックナットを締付けます。

注 意 １

クローラは最初の１０～２０時間で必ず張りの調整をしてください。

注 意 ２

左右のクローラの張りが異なると、直進性が悪くなりますので左右同じように張ってください。

注 意 ３

クローラが緩んだ状態で使用しますとクローラ外れやスプロケットのかみ合い不良を起こし、クローラが張り過ぎた状態で使用しますと駆動各部の転がり摩擦抵抗の増大および抵抗の増大を招き、クローラの寿命を著しく縮めたり、走行力の低下を引き起こしますので定期的に点検し、調整を行ってください。

定期の点検・整備をするには

シュレッダナイフの反転･交換

⚠ 危　　険

■ シュレッダナイフを扱う際は、必ず保護手袋を着用して下さい。

シュレッダナイフが磨耗した場合は、シュレッダナイフの方向を変え鋭利な刃先で材料を粉砕するようにして下さい。シュレッダナイフは４角使用できます。全ての刃先が丸くなったらシュレッダナイフを交換してください。
シュレッダナイフを反転・交換する場合は、以下の要領を参考に行ってください。

≪シュレッダナイフの反転時間の目安≫

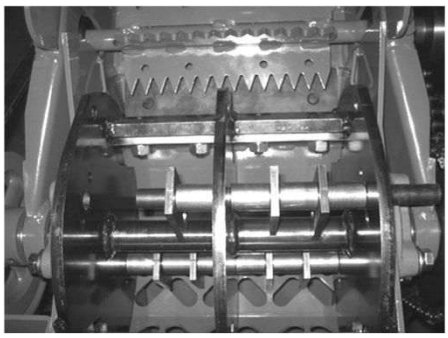
シュレッダナイフは１角約５０時間程度使用可能です。

※反転時間に関しては当社の目安になります。機械の使用のしかたや刃の状態によって調整するようにしてください。
なお、この期間はあくまでも目安であり、この期間内に故障しないことをお約束するものではありません。（Ｐ５４『消耗部品一覧』参照）

１．ロータカバーの固定ナットを緩めロータカバーを開きます。

２．シュレッダナイフ軸のナイフ軸押さえの固定ボルト･ナットを外しナイフ軸押さえを外します。

３．シュレッダナイフ軸を４分の１ほど抜きます。



４．シュレッダナイフを軸から抜き反転または交換します。

５．反対も同様に軸を４分の１程度抜き、反転または交換します。

６．ナイフ軸押さえを取り付けます。

７．残りの軸のナイフも同様に反転･交換をします。

８．ロータカバーを閉め固定ナットを締めます。

注　　意

シュレッダナイフの間のカラーが磨耗した場合も同様に交換してください。

シュレッダナイフ軸の交換

シュレッダナイフ軸に異常があった場合以下の手順で交換してください。

１．Ｒベルトホルダ・ロータプーリを外します。

２．ロータカバーの固定ナットを緩めロータカバーを開きます。

３．シュレッダナイフ軸のナイフ軸押さえの固定ボルト･ナットを外しナイフ軸押さえを外します。

４．シュレッダナイフ軸を外し、新しいナイフ軸を元の様に通します。

５．ナイフ軸押さえを取り付けます。

６．ロータカバーを閉め固定ナットを締めます。

７．Ｒベルトホルダ・ロータプーリを元の様に取り付けます。

定期の点検・整備をするには

エンジン

エンジンメーカの取扱説明書を全部読んで十分理解してから、点検・保守を行ってください。
エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

注　意
エンジン停止直後はエンジン本体の温度や油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。

≪エンジンオイルの交換≫

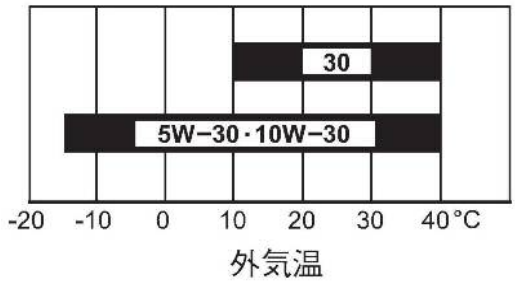
初　回	**１カ月目または 初回２０時間運転目に交換**
２回目以降	**６カ月毎または １００時間運転毎に交換**

≪オイル容量≫　１．１Ｌ（ゲージ付）

≪推奨オイル≫

Ｈｏｎｄａ純正ウルトラU汎用（ＳＡＥ１０Ｗ－３０）、または、ＡＰＩ分類ＳＥ級以上のＳＡＥ１０Ｗ－３０オイルをご使用ください。

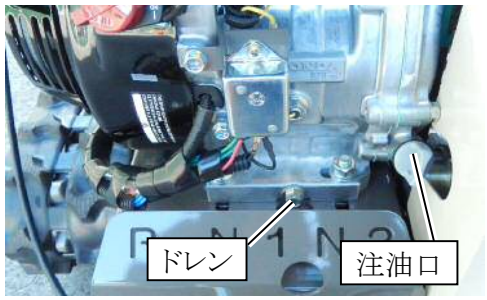
エンジン始動時の外気温に合わせて正しい粘度のオイルを選定してくださ
下表を参照して外気温に合わせてオイルを選択してください。



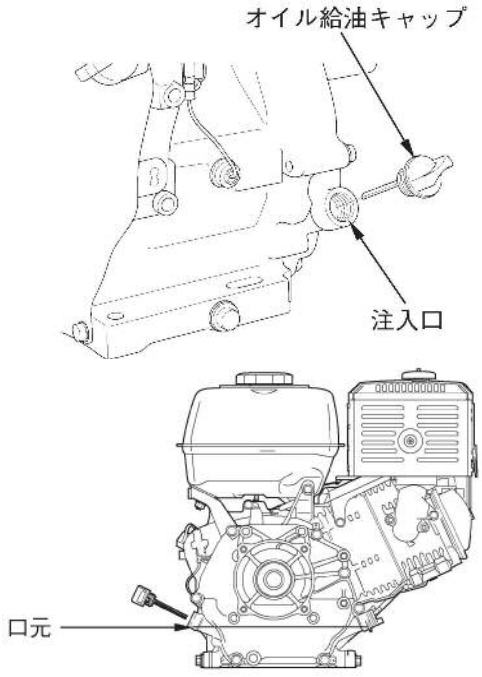
１．エンジンオイルの点検・補給

オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行ってください。

エンジン



(1) エンジンを水平にし、オイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか確認してください。

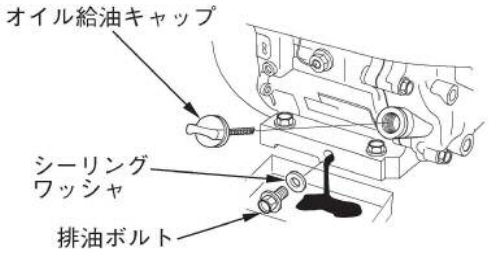


(2) 不足している場合は、新しいオイルを口元まで補給してください。汚れや変色が著しい場合は交換してください。

注　意
オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

定期の点検・整備をするには

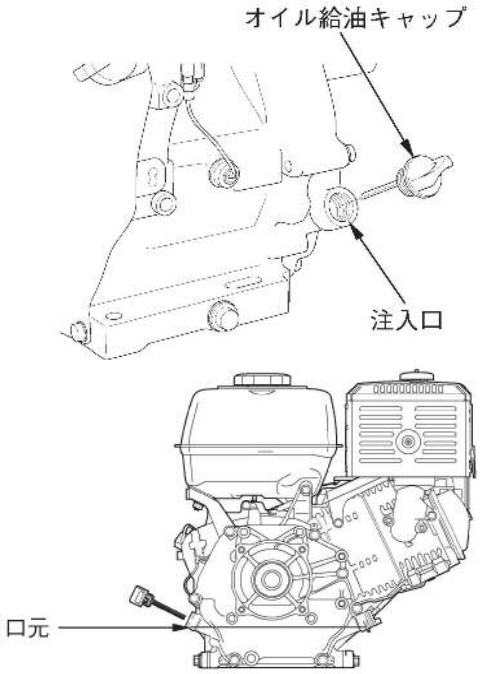
２．エンジンオイルの交換
＊Ｐ３５「オイル交換」の項参照



(1) オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。

(2) 排油ボルトをきれいに洗い、新しいシーリングワッシャを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。

(3) 注入口の口元まで新しいオイルを注入します。



(4) 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けます。

注　意
オイル給油キャップは確実に締付けて下さい。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

３．点火プラグの点検と調整と交換

電極が汚れていたり、プラグすきまが不適当な場合、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因となります。

≪プラグの点検・調整時間≫
点火プラグの点検・調整は６ケ月毎または、１００時間毎に行ってください。

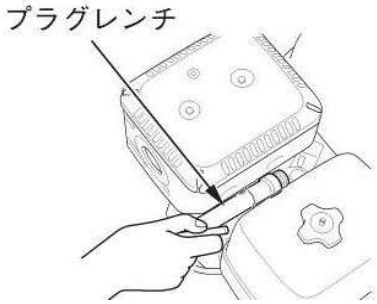
≪プラグの交換時間≫
点火プラグの交換は１年毎または、３００時間毎に交換をしてください。

≪指定プラグ≫
ＮＧＫ　ＢＰＲ６ＥＳ

※ 品番はＰ５４『消耗部品一覧』を参照してください。

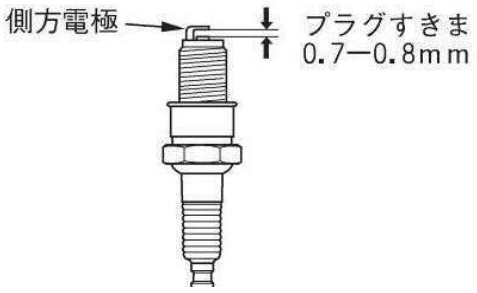
注　意
故障の原因となるので指定以外のプラグを使用しないでください。

(1) 点火プラグキャップを外して、プラグレンチで点火プラグを取り外します。



(2) プラグがカーボンで汚れている場合は、プラグクリーナまたはワイヤブラシ等で汚れを落としてください。

(3) 電極間隙の広い場合は側方電極を曲げて０．７～０．８ｍｍに調整してください。



(4) 点火プラグの掃除と電極間隙を調整し、それでもエンジンがかからない場合は新しい点火プラグと交換してください。

(5) 交換や調整後は、点火プラグを元の位置に締付けプラグキャップを確実に差し込んでください。

注　意　1

プラグの取り付けは、ネジ山を壊さないように、はじめに指で軽くねじ込み、次にプラグレンチ、プラグレンチハンドルで確実に締付けてください。

注　意　2

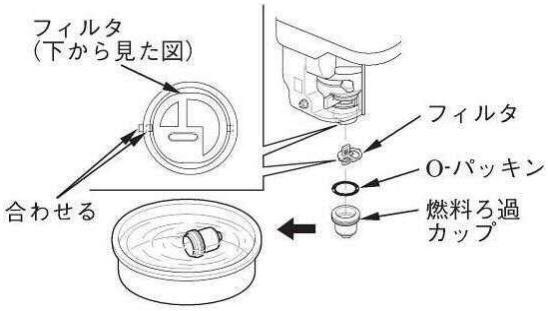
点検調整後はプラグキャップを確実にセットして下さい。確実にセットしないとエンジン不調の原因になります。

４．燃料ろ過カップの清掃

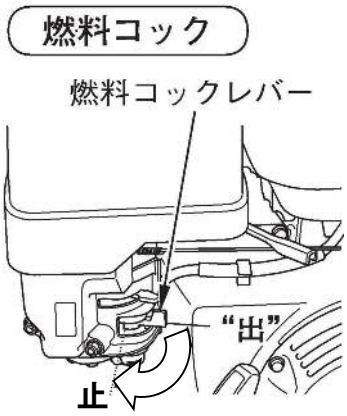
燃料ろ過カップ内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。
燃料ろ過カップの点検・清掃は６ケ月毎または、１００時間毎に行ってください。

危　険	**火気厳禁**

換気の良い場所で行い、火気を近づけないでください。
ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれた時は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。



(1) 燃料コックレバーを『止』にします。



(2) 燃料ろ過カップを取り外します。

(3) 燃料ろ過カップを油でよく洗い、底にたまったゴミや水を取り除きます。

(4) 清掃後、ガソリン漏れのないようフィルタ、Ｏ－パッキンと燃料ろ過カップを取り付け燃料ろ過カップを確実に締付けてください。

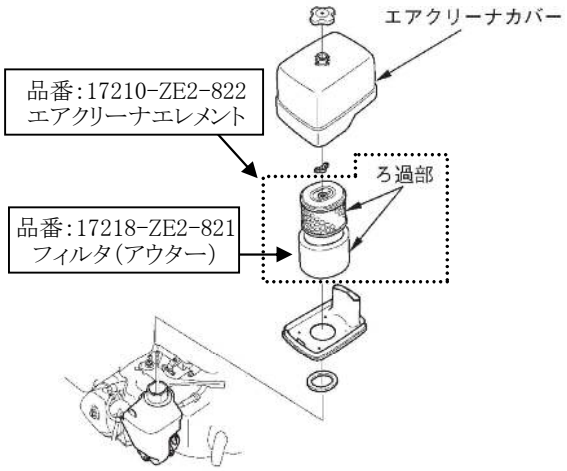
定期の点検・整備をするには

５．エアクリーナの清掃

空気中の塵挨を取り除き、エンジンにきれいな空気を供給するエアクリーナエレメントの汚れがひどい時は、エンジンの始動不良、出力不足、運転の不調をきたすばかりでなく、エンジンの寿命を極端に短くします。
毎運転前に点検・清掃をして、いつもきれいなエアクリーナエレメントにしておくよう心掛けてください。
なお、エアクリーナエレメント交換は**１年毎または、３００時間毎に交換**をしてください。

危　険　**火気厳禁**

エアクリーナエレメントの清掃は以下の要領で行ってください。



(1) エアクリーナカバーを外し、ろ過部が汚れていないか確認します。

(2) ろ過部は、内側から圧縮空気を吹き付けるか、軽く叩いて汚れを落として下さい。なお、汚れがひどい場合は交換してください。

(3) 清掃後、ろ過部をクリーナベースに置きカバーを取り付けてください。

６．燃料ホースの交換

危　険　**火気厳禁**

(1) 使用頻度に関わらず、燃料ホースは　**２年毎で交換**してください。燃料漏れは引火する危険があります。

(2) 点検時、パイプにキズやヒビ等の損傷、燃料漏れ等のあるものは即交換してください。

※ 品番はＰ５４『消耗部品一覧』を参照してください。

注　意
点検・補給は、必ずエンジンを停止してから行ってください。

注 意 2
身体に帯電した静電気を除去してから作業を行なってください。

定期の点検・整備をするには

７．日常点検



- エアクリーナエレメントの汚れ清掃
- 燃　料　残　量
- 周　囲　の　安　全
- 異　常　振　動　・　異　常　音
- 各部ボルトゆるみ・破損
- エンジンオイルの量と汚れ
- 燃料・オイル等の漏れ

８．定期点検

エンジンを常に良好な状態で使うため、次の点検表に従って保守点検を必ず実行してください。

点検項目 ＼ 運転時間	１ケ月目または初回２０時間運転目	３ケ月目または５０時間運転毎	６ケ月目または１００時間運転毎	１年目または３００時間運転毎
各部の清掃及び締付点検	●（毎日）			
エンジンオイルの点検・補給	●（毎日規定最大量まで補給する）			
エンジンオイル交換	●		●	
エアクリーナの点検・清掃	●（毎日）			
エアクリーナエレメントの交換				●
点火プラグの清掃			●	
点火プラグの交換				●
燃料ろ過カップの清掃			●	
アイドル回転点検・調整				◎
吸入・排気弁のすき間点検・調整				◎
燃焼室清掃	◎　１０００時間毎（※）			
燃料タンク、燃料ろ過網清掃			◎	
燃料チューブ点検	◎　２年毎（必要なら交換）			

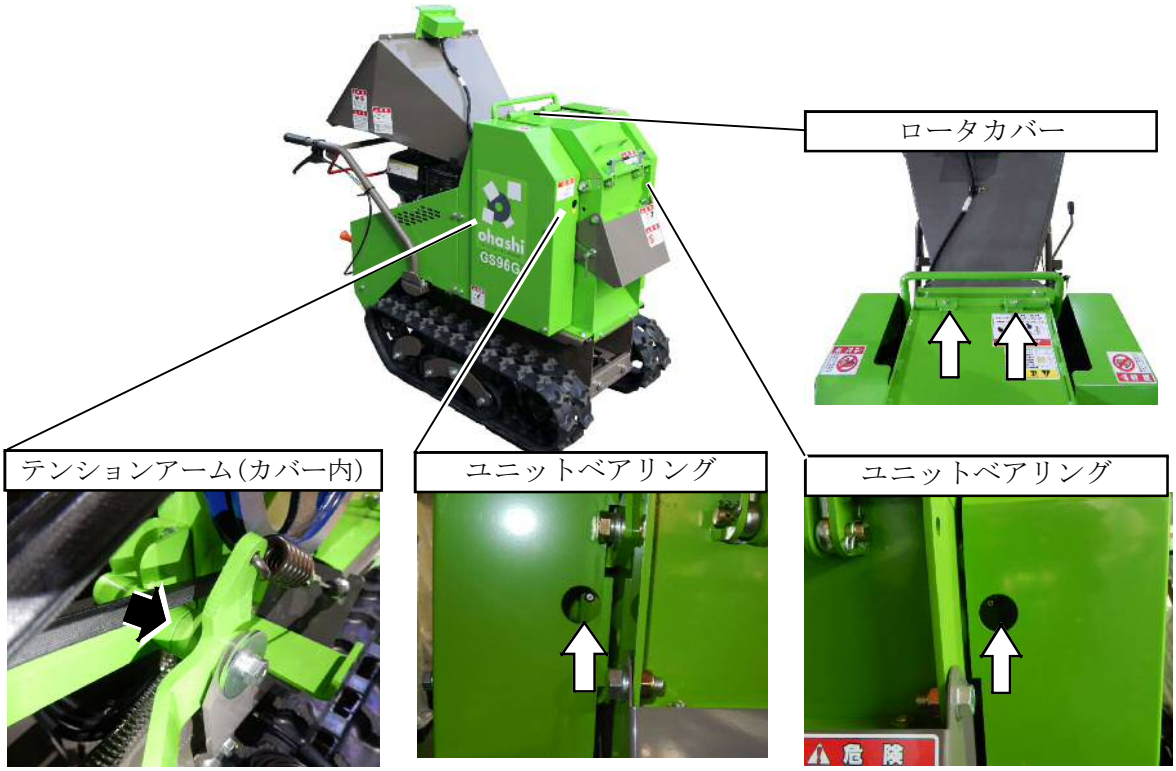
◎　印の点検項目は、販売店または整備工場にご用命ください。
※　表示時間を経過後すみやかに実施してください。

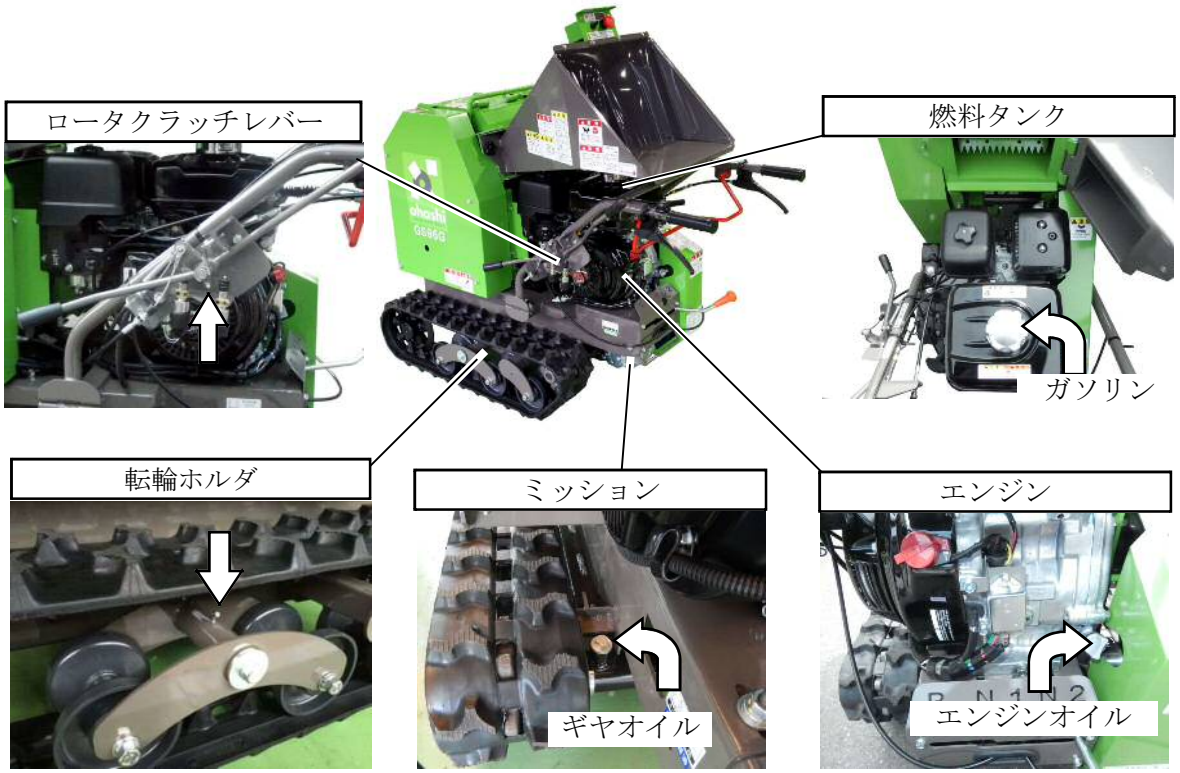
給油・注油するところ

注油位置　　給油位置　　給脂（グリース）位置

注　意

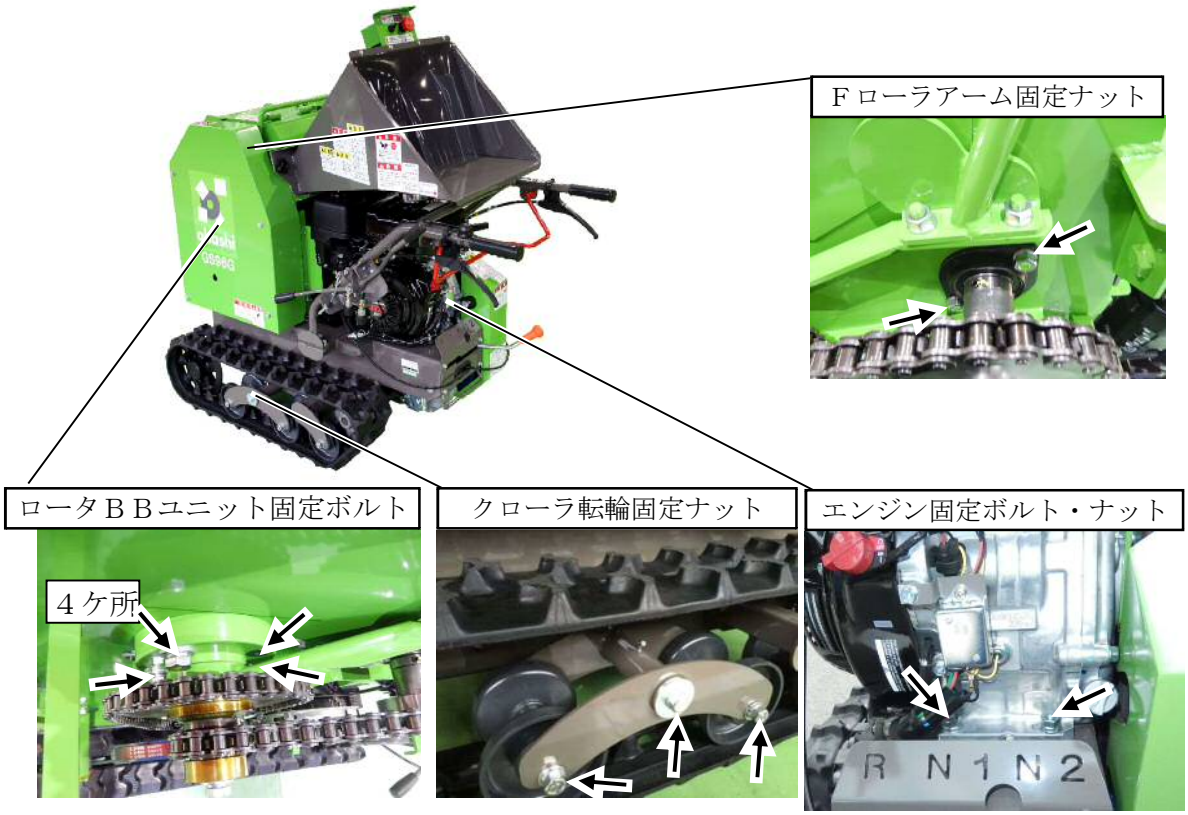
給油や注油を怠ると本機において、不具合や故障の原因となりますので定期的に給油・注油を行なってください





締付するところ

注意
ボルト・ナット部は多少ゆるむことがありますので、使用前に各主要部の締め付けボルト・ナットの増し締めを行ってください。



作業後の手入れ／長期保管

作業後の手入れ

1. 手入れをする前に次の手順で準備作業を行ってください。

   (1) 走行クラッチレバーを「切」位置にしてください。

   (2) シフトレバーを「ニュートラル」位置にしてください。

   (3) ロータクラッチレバーを「切」位置にしてください。

   (4) 燃料コックを「閉」位置にしてください。

2. 作業を行ったその日の内に、まず水洗いをして機械についたほこり・木屑・泥土等を洗い落してください。

注　意　1

ロータハウジング下の電装部品（黒い箱）には、水をかけないように注意してください。

洗浄箇所

(1) ホッパ
(2) 送りローラ
(3) ロータハウジング
(4) クローラ

注　意　2

エンジンまわり電装品は水洗いせず、圧縮空気やブラシ・布などでほこり・木屑・泥土等を落としてください。

3. 水洗い後は水分を良く乾燥させて、各回転・しゅう動部に油をたっぷり注油してください。

4. 3.で注油できなかった部分に、同様に油をたっぷり注油してください。

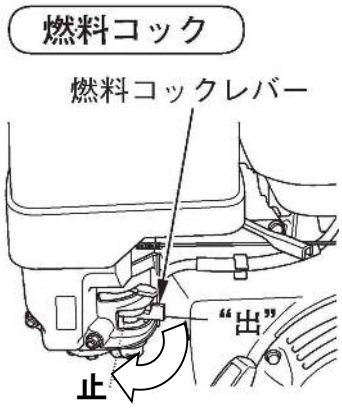
作業後の手入れ／長期保管

長期保管

1．　各部をよく洗った後、機械の全注油、給脂（グリース）箇所に、注油・給脂をしてください。

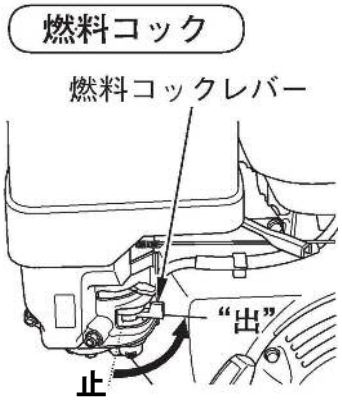
2．　燃料タンクの燃料を次の手順で抜き取ってください。

(1) 燃料コックを「止」位置にしてください。



(2) ストレーナカップを左にまわして外し、ストレーナカップ内の燃料とゴミを取り除いてください。

(3) 燃料コックの下に、受皿等を当ててから燃料コックを「出」位置にしてタンク内の燃料を抜いてください。



(4) ストレーナカップを元に戻してください。

3．　エンジンを始動し、燃料が切れてエンジンが停止するまで運転します。

4．　エンジンオイルは新しいオイルと交換しておいてください。

5．　エアクリーナは、エレメントを外し清掃後、再度取り付けてください。

6．　１ケ月に１回程度エンジンをかけて本機を動かし、エンジン・油圧系に潤滑油が行き渡るようにするとともに、補充電をしてください。

7．　各部を油布で清掃し、カバーをかけてください。格納は湿気、ほこりの少ない所にしてください。

8．　屋内に機械を保管するときはエンジンが冷めた事を確認し保管してください。
シートカバーを掛ける時はエンジンが熱いときは掛けないでください。
エンジンが冷めた事を確認し掛けてください。

注　　意

寒冷地では、使用後必ず本機に付着した泥や異物を取り除いて、コンクリートか固い乾燥した路面、又は角材の上に駐車してください。付着物が凍結して故障の原因となります。
又、凍結して運転不可能になった場合には無理に動かそうとせずに凍結箇所をお湯で溶かすか、凍結が溶けるまで待ってください。（無理に動かした場合の事故については責任を負いかねますので特にご注意ください。）

作業後の手入れ／長期保管

付属工具一覧

機械を使用する前に、付属工具が揃っている事を確認してください。

付属工具一式
品番･･･１０７２９９００００

NO	工具名	サイズ	数量
1	六角棒スパナ	８ｍｍ	1
2	メガネレンチ	１７×１９	1
3	T型レンチ	１３ｍｍ	1

≪エンジン工具≫

工具名	品番	数量
スパークプラグレンチ	８９２１６-Ｚ０Ｔ-８００	1
ボックスレンチハンドル	８９２１９-８０５-０００	1

≪その他工具 ≫

工具名	品番	数量
スケールセット	Ｂ９８００１５００３０	1
ロータロックピン	１０７１６５７０００	1

ロータロックピン



消耗部品一覧表

品　　名	品　　番	数／台	交換目安時間 備　　考
作　業　機　関　係			
チッパナイフセット	１１１０６２２０００Ｓ	1	片面２５時間
チッパナイフ（単品）	１１１０６２２０００	2	片面２５時間
受　　刃	１１１０６３２０００	1	片面７５時間
シュレッダナイフ	１０７１６２５０００	8	２００時間 （１角５０時間）
ロータベルト	Ａ８１３Ｖ０２０７１０	1	適宜交換 ２Ｒ－３Ｖ－７１０
走行ベルト	Ａ８１ＳＡ０１００３６	1	適宜交換 ＳＡ－３６
エンジンベルト	Ａ８１ＳＡ０１００４７	1	適宜交換 ＳＡ－４７
電磁クラッチベルト	Ａ８１ＳＢ０１００３６	1	適宜交換 ＳＢ－３６
逆転ベルト	Ａ８１ＳＡ０００００２３	1	適宜交換 ＳＡ－２３
ロータ軸ベアリング	１０７１６４３０００Ｏ	2	５００時間
Ｆローラ軸ベアリング	Ａ７０５５２０５０００	2	１０００時間
第一軸ベアリング	Ａ７０５５２０５０００	2	１０００時間
第二軸ベアリング	Ａ７０５５２０４０００	2	１０００時間
Ｆローラチェーン	Ａ８３５００００４４０	1	適宜交換
第二軸チェーン	Ａ８３４００００６８０	1	適宜交換
エ　ン　ジ　ン　関　係			
エアクリーナエレメント	１７２１０－ＺＥ２－８２２	1	３００時間
エレメントフィルタ（アウター）	１７２１８－ＺＥ２－８２１	1	適宜交換
燃料ホース	９１４２４－Ｚ５Ｋ－００３	1	２年毎に交換
スパークプラグ	９８０７９－５６８７６	1	３００時間 （ＢＰＲ　６ＥＳ）
電　気　関　係			
ヒューズ　Ａ	Ａ９９０５２１２５１０	1	全体（10A）
ヒューズ　Ｂ	Ａ９９０５２１２５０１	1	バルブコントロール 基板（1A）

◎ オイルは、Ｐ３５『オイル交換』の項をご覧ください。

◎ 部品の交換時期の目安は、使用頻度や使用環境などにより異なります。なお、この期間はあくまでも目安であり、この期間内に故障しないことをお約束するものではありません。
また、長時間連続使用など、ご使用状態によってはこの目安の期間よりも早期に部品交換が必要となる場合があります。

◎ チッパナイフの研磨のご用命は、販売店へお問い合わせください。

トラブルシューティング　～エンジンに関するトラブル～

エンジンを止めてから点検してください

こんな確認をして		こう処置する
エンジンがかからないとき	(1) エンジン始動をしてもエンジンがかからない時	エンジン非常停止スイッチが押されていないか確認してください。（右に回すと解除します）
	(2) 燃料が切れていないか	燃料の補給をする
	(3) 燃料が燃焼室に吸込まれているか	キャブレタ、燃料ストレーナを清掃する
	(4) エンジンの始動手順が間違っていないか	正しい始動手順でエンジンをかける
	(5) 燃料に水が入っていないか	燃料ストレーナに水が溜まっていれば、キャブレタや燃料ストレーナを外して水抜き、洗浄を行う
	(6) 長期保管時の古い燃料が残っていないか	燃料タンク・ストレーナ・キャブレタ内の燃料を抜き、新しい燃料と交換する 特にキャブレタは、メーンジェットの穴が詰まるので念入りに掃除をする
	(7) 点火プラグが悪くなっていないか	点火プラグを外し、濡れていれば、火であぶるか、乾いた布などで良く乾燥させ点火プラグの火花間隔（０．７～０．８ｍｍ）を調整し、それでもかからない場合は新しい点火プラグと交換する **注意** 交換や調整後は、点火プラグを元の位置に締付け、プラグキャップを確実に差し込むこと
エンジンの力がないとき	(1) エアクリーナにゴミがたまっていないか	エアクリーナエレメントのゴミを除去し、きれいに清掃する
	(2) ブロワハウジングの吸気口にゴミがたまっていないか	ゴミを除去し、きれいに清掃する
	(3) エンジンオイルが不足していないか	エンジンオイルを補給する また、オイルが古くなっている場合、新しいオイルと交換する
	(4) エンジンの回転は上がるか	スロットルレバーの遊びを減らす スロットルワイヤのズレを直す
	(5) エンジンの圧縮はあるか	点火プラグ及びシリンダヘッドボルトを締め付ける ピストンリング等の磨耗も考えられるので購入先に相談する
材料が噛みこんでエンジンが停止したとき		付属の工具で送りローラを回してください（Ｐ３３参照）
各部に振動が多いとき	(1) エンジンが振れていないか	エンジン取付ボルトを強く締め直す
	(2) チッパナイフ外れていないか 取付ボルトが外れたり緩んでいないか	チッパナイフを正しく付け直す 取付ボルトを強く締め直す （締付トルク１１０Ｎ・ｍ）
	(3) ロータハウジングが振れていないか	ロータハウジング取付ボルトを強く締め直す
	(4) ロータ軸受けが破損していないか	ロータ軸受けを交換する

トラブルシューティング　～送りローラが回転しない場合①～

Q1. 送りスイッチが『停止』になっていませんか？

YES

送りスイッチを『正送り』にしてください。

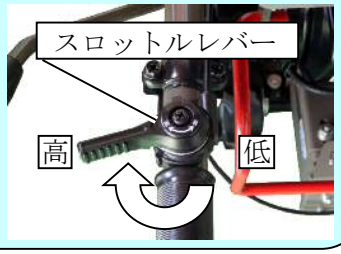


NO

Q2. スロットルレバーが『低』になっていませんか？

YES

スロットルレバーを『高』位置にしてください。



NO

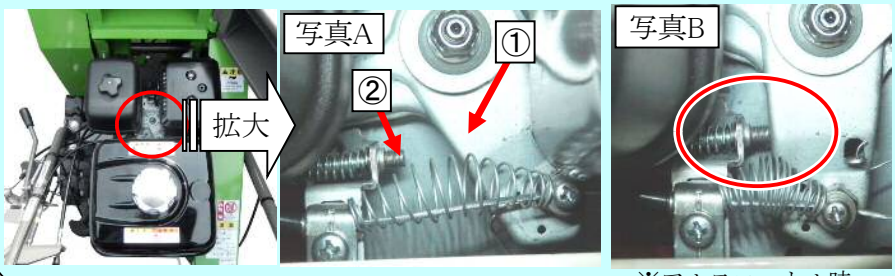
Q3. スロットルレバーのワイヤがずれていませんか？

NO

YES

ワイヤの調整を行ってください。

(1)フルスロットル時に、写真A の①と②の部分が 写真B の様に接触しているか確認してください。
(2)ずれている場合は 写真A の①のネジを緩めてワイヤの調整を行ってください。※接続部は燃料タンクとマフラの間付近にあります。



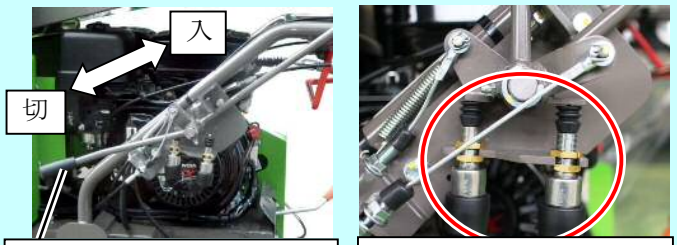
※フルスロットル時

Q4. ロータクラッチは『入』になっていますか？
セフティスイッチがきちんと押されていますか？

YES

NO

ロータクラッチを『入』にしてください。
セフティスイッチをきちんと押してください。



ロータクラッチレバー　　セフティスイッチ

Q5. ロータベルトが切れていませんか？
ベルトのゆるみがありませんか？

YES

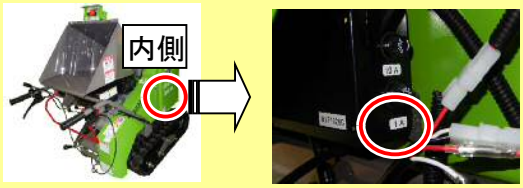
ベルトの張りの調整または、ベルトの交換をしてください。　※取扱説明書　P39参照

NO

次ページへつづく

トラブルシューティング　～送りローラが回転しない場合②～

Q6．1Aのヒューズを抜いた状態で回りますか？



回らない

回る

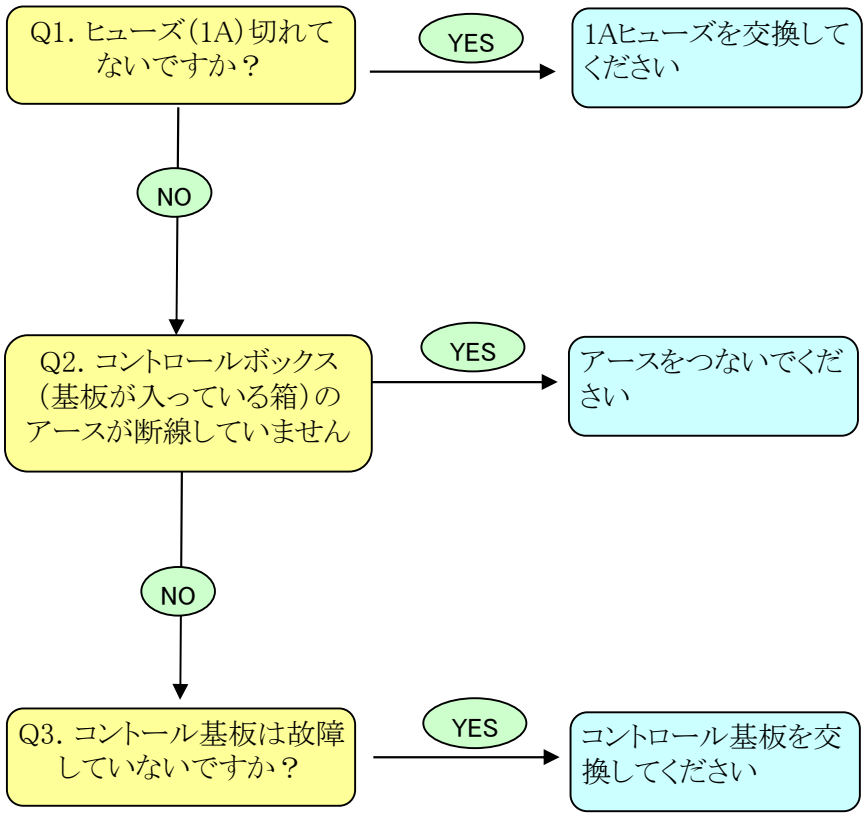
原因
1．エンジンの回転が低い
　(1)エンジンの状態を確認する
　(2)エンジンOILの量、汚れ
　(3)エアクリーナの詰まり、汚れ
　(4)回転数の確認　等

2．コントロール基板の故障
　(1)コントロール基板を交換する
　(2)配線がきちんとつながっているか

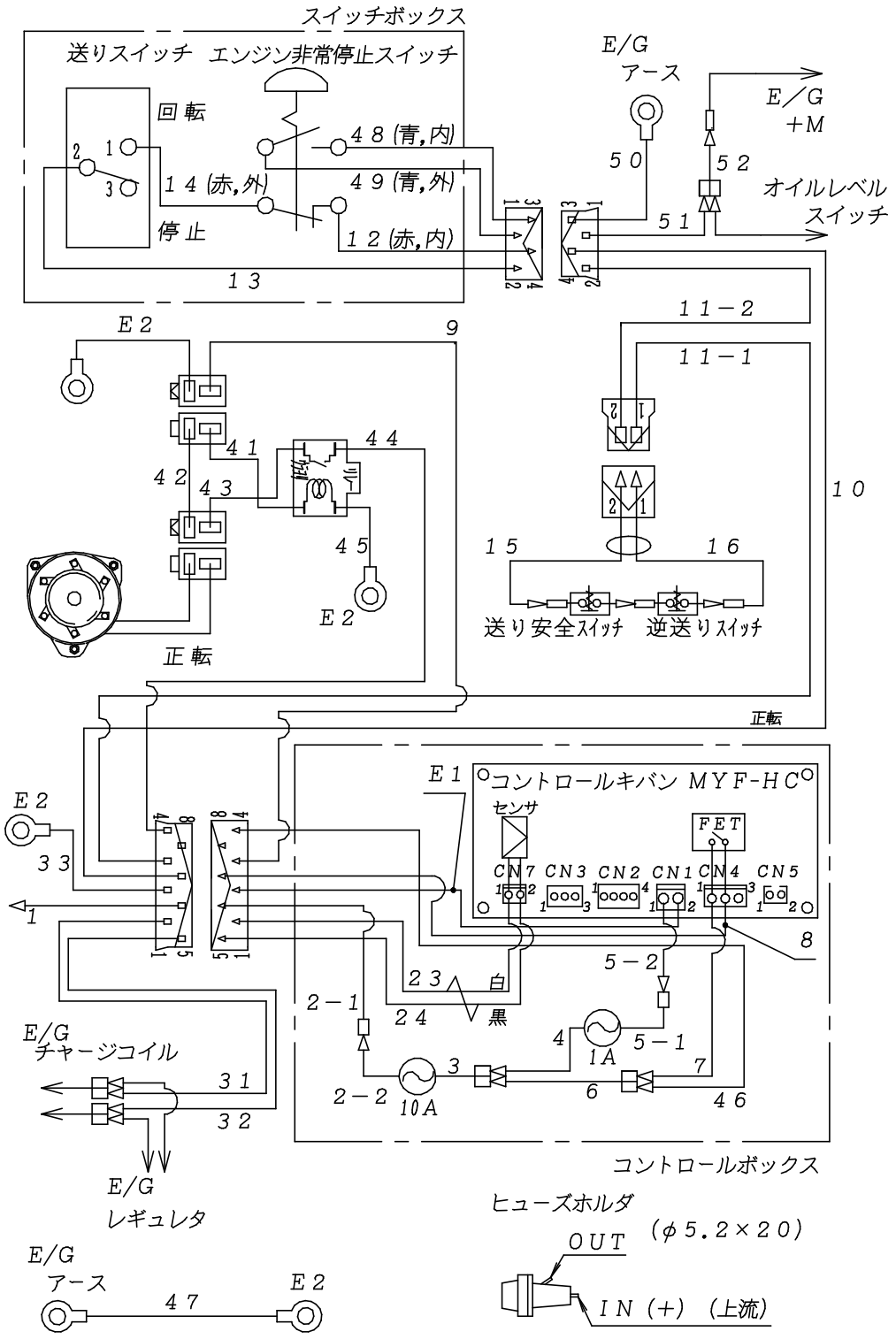
≪原因≫
1．電気系の異常
　(1)配線が断線している
　　・チャージコイルからの分岐している所からの線の抜けや断線
　　・配線のチェックを行って断線箇所があれば結線してください。
　　・テスター等で通電の確認を行ってください。
　(2)セフティスイッチの故障
　　・ロータクラッチ、逆転レバーのセフティスイッチが押された状態の時に
　　通電しているかテスター等で確認してください。確認は数回行ってください。
　(3)送りスイッチの故障
　　・テスター等で通電の確認を行ってください。
　(4)エンジンからの電圧の不足(レギュレター、チャージコイル等)
2．電磁クラッチの異常
　(1)クリアランスが広がっている(調整方法はP41参照)
　(2)電磁クラッチの故障
　　・バッテリ電源で、プラス、マイナス、を電磁クラッチと直接配線し、確認が
　　可能です。その際バッテリの端子カバーの黒色がマイナスになります。
　　・正常の場合はクラッチから『カチッ』と音がなり、つながります。
　(3)断線している
　　・断線しているかテスターにつなぎ確認してください。
3．コントロール基盤の故障(回路の断線)
　　・コントロール基板を交換してください。

トラブルシューティング　～自動制御が効かない場合～

※材料は送り込むが、自動停止せずエンジンが止まる場合は下記をご確認ください。



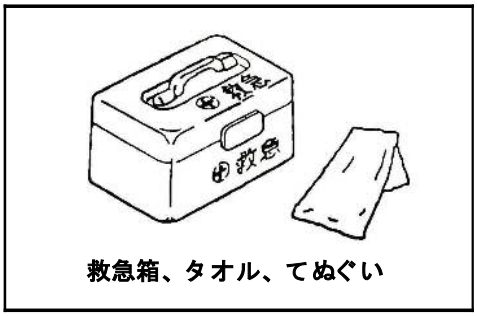
配線図


スイッチボックス
送りスイッチ
エンジン非常停止スイッチ
回転
停止
48(青,内)
14(赤,外)
49(青,外)
12(赤,内)
13
E/G
アース
50
E/G
+M
52
51
オイルレベル
スイッチ
E2
9
11−2
11−1
41
42
43
44
45
E2
正転
15
16
送り安全スイッチ
逆送りスイッチ
10
正転
E1
コントロールキバン MYF-HC
センサ
FET
CN7 CN3 CN2 CN1 CN4 CN5
E2
33
1
8
23
白
24
黒
2−1
5−2
5−1
1A
4
3
2−2
10A
6
7
46
8
E/G
チャージコイル
31
32
E/G
レギュレタ
コントロールボックス
ヒューズホルダ
OUT
(φ5.2×20)
IN(+) (上流)
E/G
アース
47
E2

万一の事故に備えて







●作業の前に

・ 万一の事故に備え、電話機もそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。
特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。

・ 作業する場合、どこで作業を行っているかが他の人にもわかるような方法（黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。負傷し動けなくなり帰れない場合の対処として有効です。

・ 作業現場には、呼子（笛）を持っていってください。

●発火に対する備え

危　　険

万一、エンジンから、発火または発煙したら、ただちに、機械を停止させ、スイッチをOFF位置にして、まず消火すること。この場合、自分の身体の防御にも充分注意すること。

・ エンジンから発火または排気口以外から発煙した場合、まず、機械を停止させ、スイッチをＯＦＦ位置にし、消火してください。

・ 自分の身体を、火災その他の傷害から守るよう注意してください。

・ 草、木などに類焼しないよう注意してください。

・ スコップで砂などをかけるか、または油火災消火用の消火器で消火してください。

●ケガへの備え

・ 万一のケガへの備えとして、救急用品としては、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
出血をともなうケガについては、止血用に汗ふき用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。

● 応急手当

・応急手当については、地域の消防署や消防組織（消防団など）で知識、技能の普及につとめていますので、それらの講習、訓練を受け、基本的な知識を習得されることをおすすめします。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは、下記の点を明確にして、お買い求め先へお問合わせください。

●ご使用機の型式名と機体番号は？購入年月日は？

型　　式　　ＧＳ９６Ｇ

機体番号

購入年月日　　年　月　日

●ご使用状況は……？
（どんな作業のとき等）

●トラブルが発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えください。

●ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談ください。

販 売 店

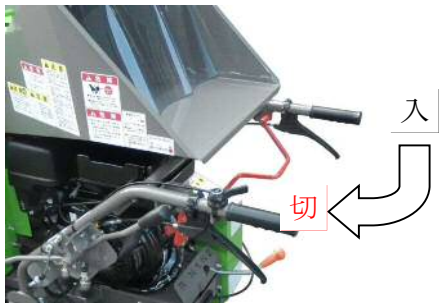
担 当 者

Ｔ Ｅ Ｌ　　（　　）

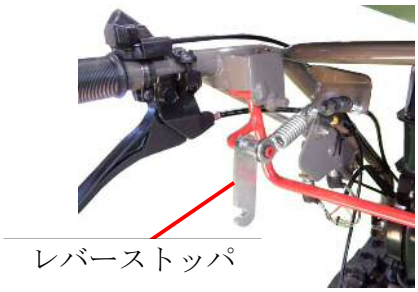
GS96G　使 用 手 順 書

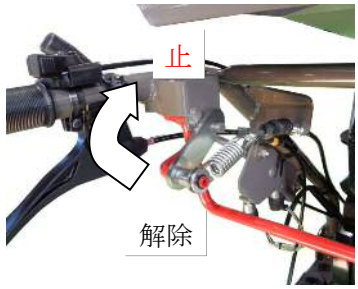
① 走行クラッチレバーを「切」位置にします。(駐車ブレーキも同時に入ります。)



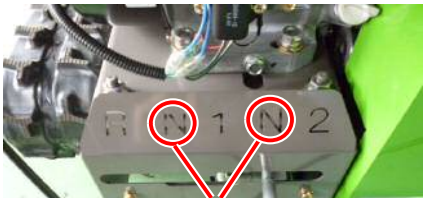


② レバーストッパーを「止」位置にしロックさせます。





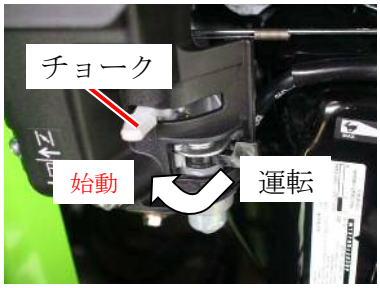
③ シフトレバーを「N」の位置にします。

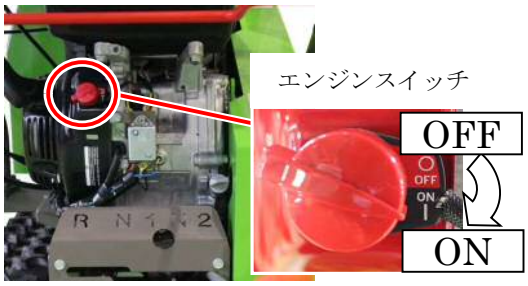


シフトレバーを「N」位置にす

④ 燃料コックレバーを「出」、チョークを「始動」位置にし、エンジンスイッチを「ON」にします。

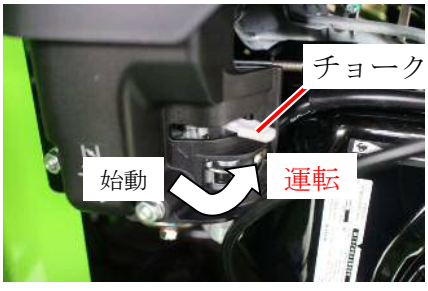






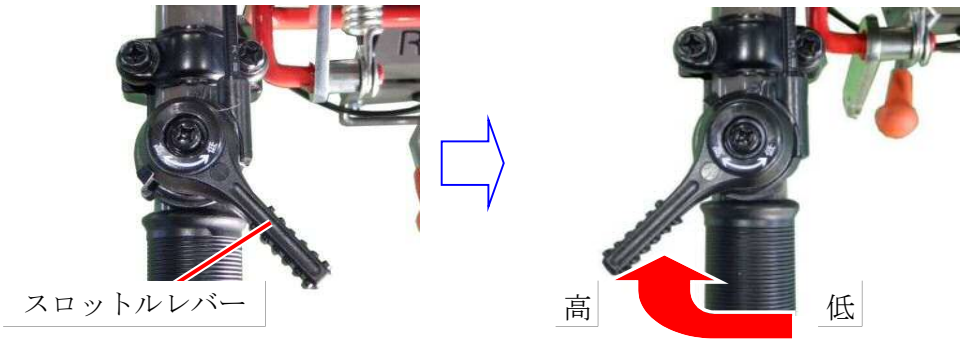
⑤ 始動グリップを静かに引き、重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張りエンジンをかけます。エンジンが始動したらチョークを「運転」の位置にもどします。



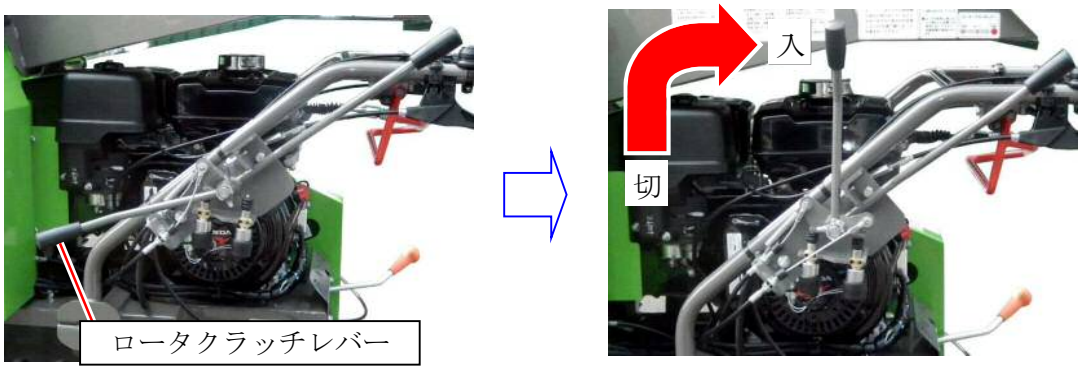


裏面につづく

⑥スロットルレバーを「低」から徐々に「高」位置にします。



⑦　ロータクラッチレバーを「切」からゆっくりと5秒ほどかけて「入」方向へ上げます。



⑧　投入口上部の送りローラスイッチを正送りへすると、粉砕作業が出来ます。



⑨ 作業が終わりましたら、⑧送りスイッチ「停止」→⑥スロットルレバー「低」→
⑦ロータクラッチレバー「切」の順で、元の位置に戻し終了 してください。

※ 送りローラが回らないときは、下記に注意してください。



スロットルレバーが「高」
位置にありますか

始業点検表

型式

GS96G

機体番号

お客様名	フリガナ
販売店	

	日付 / 点検項目	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／
1	エアクリーナの清掃・点検 ※5 参照										
2	エンジンオイルの量、汚れ OIL002 （SE級以上）										
3	チッパナイフの欠け・磨耗 11106220000S										
4	受刃の欠け・磨耗 11106320000										
5	シュレッダナイフの欠け・摩耗 10716390000S										
6	ナイフ、受刃ボルトの増締め ※3										
7	各部のグリースアップ (グリースはリチウム系)										
8	各部への給油・注油										
9	エンジン、クローラの清掃										
10	ベルト・チェーンの磨耗、亀裂 ※4 参照										
11	使用時間合計	H	H	H	H	H	H	H	H	H	H

※1 エンジンオイルは初回20時間、以降100時間毎に交換してください。　※2 ミッションオイル ＃80

※3 チッパナイフ・受刃の固定ボルトは締付トルク110N・mで締付を行ってください。

※4 走行ベルト A81SA010036(SA36)　エンジンベルト A81SA010047(SA47)
ロータベルト A813V020710(2R3V710) 電磁クラッチベルト A81SB010036(SB36)
逆転ベルト A81SA000023(SA23)　Fローラチェーン A8340000680(40-68RB)

※5 エアクリーナエレメント(17210-ZE2-822) エレメントフィルタ(アウター)(17218-ZE2-821)

株式会社　大　　橋

佐賀県神埼市千代田町崎村４０１
TEL：0952-44-3135
FAX：0952-44-3137
E-mail：eco@ohashi-inc.com
http：//www.ohashi-inc.com/